

YAMAHA *Clavinova*[®]

**CLP-156
CLP-158**

取扱説明書

このたびは、ヤマハ・クラビノーバを
お買い求めいただきまして、
まことにありがとうございました。

クラビノーバの機能を十分に生かして
演奏をお楽しみいただくために、
この「取扱説明書」をご活用ください。
お読みになったあとは、いつでも
ご覧になれるところに大切に保管して
くださいますよう、お願い申し上げます。

本書の構成

はじめに

「はじめに」では、クラビノーバの特長や、お使いになる上でのご注意、読みたいページの見つけかた、各部の名称とはたらきなどについて説明します。

クラビノーバを最初にお使いになる前に、必ずお読みください。

演奏

「演奏」では、基本的な音色選択をはじめ、ペダル効果や、演奏を盛り上げるさまざまな効果について説明します。

再生と録音

「再生と録音」では、付属のピアノプレーヤソフト紹介ディスクや別売のピアノプレーヤソフトを再生させたり、フロッピーディスクに自分の演奏を録音する方法を説明します。

その他の機能

「その他の機能」では、クラビノーバの発展的な機能や、他の機器との接続方法について説明します。

MIDI

「MIDI」では、MIDIの知識やクラビノーバのMIDI機能を説明します。

資料

「資料」では、クラビノーバの組み立てかたなど、お使いになる上で役に立つ資料をまとめてあります。

目次

はじめに

演奏

再生と録音

その他の機能

MIDI

資料



| | |
|---------------|---|
| 正しくお使いいただくために | 2 |
| 特長 | 3 |
| 目的のページの見つけかた | 3 |
| 表記上のきまり | 3 |
| ご使用前の準備 | 4 |
| 各部の名称とはたらき | 6 |



| | |
|--------------------|----|
| さあ！弾いてみましょう | 8 |
| デモ演奏を聞いてみましょう | 12 |
| ペダル効果 | 14 |
| ブリリアンス効果 | 16 |
| リバーブ効果 | 17 |
| エフェクト効果(CLP-158のみ) | 19 |
| デュアル機能 | 21 |
| メトロノーム機能 | 24 |



| | |
|-----------------------|----|
| フロッピーディスクの取り扱い | 26 |
| ディスクの再生 | 27 |
| フロッピーディスクのフォーマット(初期化) | 32 |
| 録音 | 33 |
| ソングコピー | 40 |



| | |
|------------------|----|
| タッチセンシティビティ調節機能 | 43 |
| トランスポーズ(移調)機能 | 44 |
| ピッチコントロール機能 | 45 |
| 鍵盤ごとの調律機能 | 47 |
| 他の機器と接続する | 51 |
| すべての設定を工場出荷状態に戻す | 51 |



| | |
|---------------------|----|
| MIDIとは | 52 |
| MIDI機能の設定 | 53 |
| MIDIデータフォーマット | 56 |
| MIDIインプリメンテーションチャート | 58 |



| | |
|----------------|----|
| クラビノーバの組み立てかた | |
| CLP-156 | 59 |
| CLP-158 | 61 |
| エラーメッセージ | 63 |
| オプション(別売品)のご紹介 | 63 |
| 仕様 | 64 |
| サービスと保証 | 65 |

正しくお使いいただくために

はじめに



設置場所

次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に熱い場所
- ・温度の特に低い場所
- ・湿気やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所



お取り扱い

次のようなご使用は、故障や外装を傷める原因となりますので、ご注意ください。

- ・物をぶつけたり上に乗るなど、乱暴に扱う。
- ・汚れた手や濡れた手で触る。
- ・ボタンやスイッチ類に無理な力を加える。



クラビノーバの上に物を置く場合のご注意

次のような物をクラビノーバの上に置きますと、水がこぼれて故障の原因になったり、外装を傷める原因となりますので、ご注意ください。

- ・水の入った花瓶や鉢
- ・塩化ビニール加工された表紙の本、ビニール製品、プラスチック製品



外装と鍵盤のお手入れ

- ・お手入れは、フェルト布などの柔らかい乾いた布で乾拭きするか、汚れのひどいときは少し水で湿らせた布で拭いてください。アルコールやシンナーなどの溶剤は、絶対に使用しないでください。
- ・市販の化学雑巾や外装手入れ剤のご使用は避けてください。



電源

- ・このクラビノーバは日本国内仕様です。電源は必ずAC100Vでご使用ください。
- ・ご使用にならないときは、電源スイッチを切ってください。
- ・落雷の危険があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・消費電力の大きな機器と同じコンセントを使用したり、タコ足配線をすると音質が劣化したり、故障の原因となりますので、ご注意ください。
- ・濡れた手で電源プラグに触ると、感電するおそれがありますので、ご注意ください。
- ・電源コードをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いてください。コードを引っ張ると、断線やショートの原因となります。



接続

- ・クラビノーバを外部機器と接続するときや、接続コードをはずすときは、スピーカーやアンプの損傷を防ぐため、あらかじめ両機器の電源を切ってください。
- ・電源を入れるときや切るときは、あらかじめ両機器のボリュームを最小にしてください。



他の電気機器への影響

ラジオやテレビの近くで使用しますと、ラジオやテレビに雑音が発生することがあります。充分に離してご使用ください。



保証書

お買い求めいただきました際に、お買い上げ店で必ず保証書の手続きをお取りください。保証書にご購入日や販売店印がない場合、保証期間中でも修理の費用をいただすことになりますので、ご注意ください。

その他

- ・クラビノーバの内部を開けたり改造することは、事故や故障の原因となりますので、絶対にしないでください。改造後の保証はいたしかねます。
- ・誤って水やその他の液体をクラビノーバにこぼしたり、クラビノーバから異臭や煙が出たときは、すぐに電源プラグを抜き、お買い上げ店または巻末のサービス拠点にお問い合わせください。

クラビノーバは調律の必要がありません。



音楽を楽しむエチケット

これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時間や場所によっては気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わずところで迷惑をかけてしまうことがあります。隣近所への配慮を十分にして、快い生活環境を守りましょう。

付属品(お確かめください)

- 椅子・BC-8
- ピアノプレーヤソフト紹介ディスク
- 録音用ブランクディスク

- 取扱説明書(本書)
- 保証書
- ご愛用者カード

特長

- ◆アコースティックピアノのステレオサンプリングを採用するなど、AWM音源によりリアルで高品位な表現が可能です。
- ◆最大32音の同時発音により、幅広い演奏表現が可能です。
- ◆ピアノのアクション機構解析から生まれた自然なタッチ感覚のAE鍵盤を採用しました。
- ◆デュアル機能により、2つの音色を重ねて演奏することができます。
- ◆ユニークなクラビノーバトーン音色により、新鮮な音楽表現が可能です。
- ◆内蔵リバーブにより、音の響きを豊かにすることができます。
- ◆内蔵エフェクトにより、様々な効果をかけることができます(CLP-158のみ)。
- ◆ダンパーペダルを踏んだときのアコースティックピアノの弦と響板の響きをシミュレートした共鳴効果をも再現します(CLP-156はピアノ1、2のみ、CLP-158はピアノ1、2、3のみ)。
- ◆メトロノームを装備しており、レッスンなどで有効にお使いいただけます。
- ◆付属のピアノプレーソフト紹介ディスクや別売のピアノプレーソフトを再生させたり、フロッピーディスクに自分の演奏を録音することができます。
- ◆デジタル楽器の統一規格であるMIDI端子を装備しており、演奏表現の可能性がいっそう拡がります。

目的のページの見つけかた

必要な情報を手早く見つける方法はいくつかあります。

- ◆巻頭の「目次」を使う。
最も一般的な方法です。
- ◆「はじめに」の中の「各部の名称とはたらき」(6、7ページ)を参考にする。
ボタンなどの働きがわからなくなったときに、有効な方法です。
パネルのイラストから、関連ページがすぐに探し出せます。

表記上のきまり

この取扱説明書では、表記に次のような記号を使います。



補足

: 補足説明です。



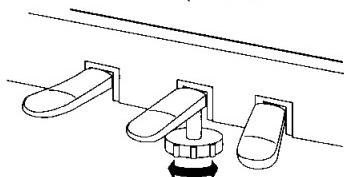
: 本書の手順の説明のイラストで、ランプの点灯、点滅、消灯は、それ
点灯 点滅 消灯 ぞれこのように表します。

ご使用前の準備

はじ
に

アジャスターの調節

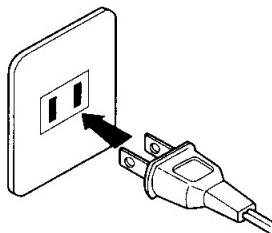
(必ず行ってください)



設置場所が決まりましたら、ペダルの下のアジャスターを回して、ペダル部を床面に固定させてください。
アジャスターが固定されていないと、ペダルを踏んだときにぐらつきが生じます。

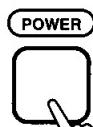
音を出す準備

1 電源コードを接続する



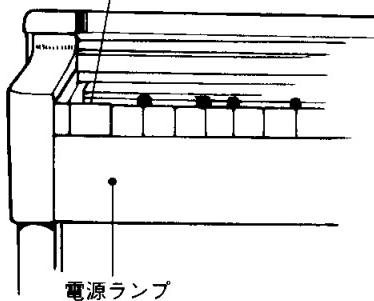
家庭用(AC100V)コンセントに、電源プラグを差し込みます。

2 電源を入れる

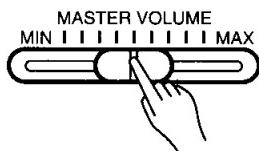


電源(POWER)スイッチを押して電源を入れます。

⇒ 電源ランプが点灯します。



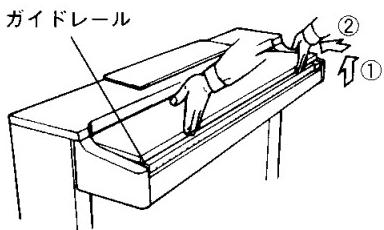
3 音量を調節する



ボリューム(MASTER VOLUME)を中程まで上げておきます。あとは、クラビノーバを実際に使いいただきながら、調節します。

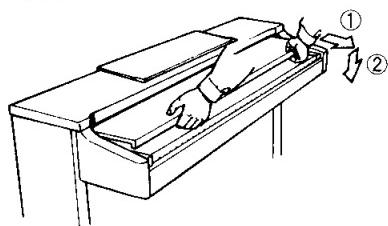
スライド式キーカバーの開けかた／閉めかた

開けるとき



- ①少しだけ持ち上げます。
・持ち上げすぎないように、ご注意ください。
②ガイドレールの上をすべらせて開けます。

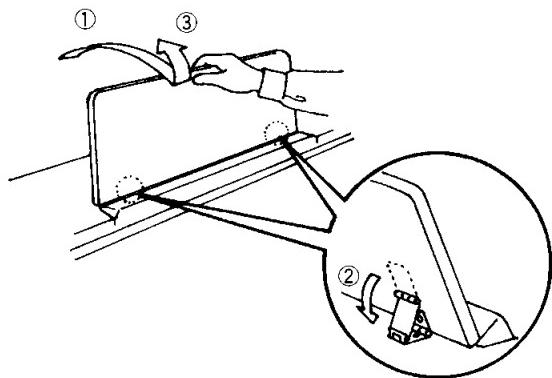
閉めるとき



- ①ガイドレールに沿って下へすべらせます。
②手を添えて降ろします。

譜面立ての立てかた／倒しかた

CLP-156



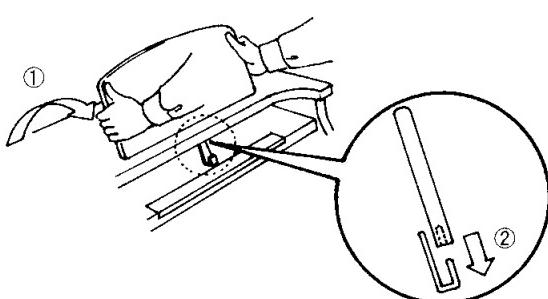
立てるとき

- ①譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
②譜面立て後ろ側の金具2つを、下向きに開きます。
③金具2つが固定される位置まで、譜面立てを戻します。

倒すとき

- ①譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
②譜面立て後ろ側の金具2つを、上向きに閉じます。
③譜面立てに手を添えて、ゆっくり戻します。

CLP-158



立てるとき

- ①譜面立てを、回転させるように持ち上げながら起こします。
②譜面立ての下方にあるフックに、譜面立ての下部を差し込みます。

倒すとき

持ち上げてから、回転させるように、ゆっくり戻します。

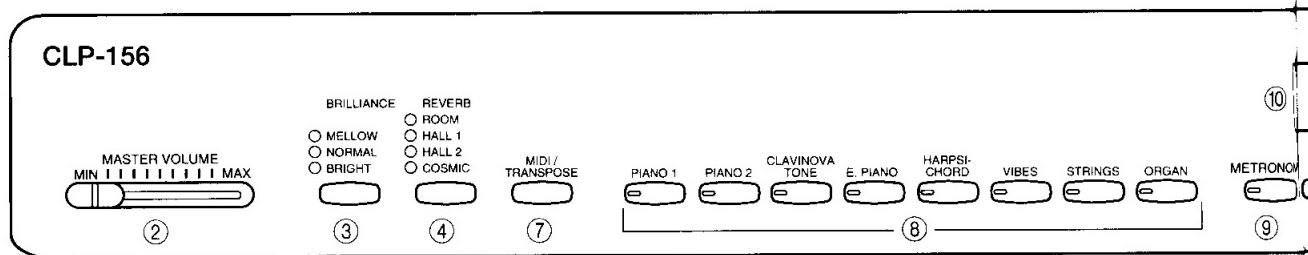
- ・譜面立ては、中間位置で使用または放置しないでください。
- ・譜面立てを倒すときは、途中で手を離さないでください。

各部の名称と機能

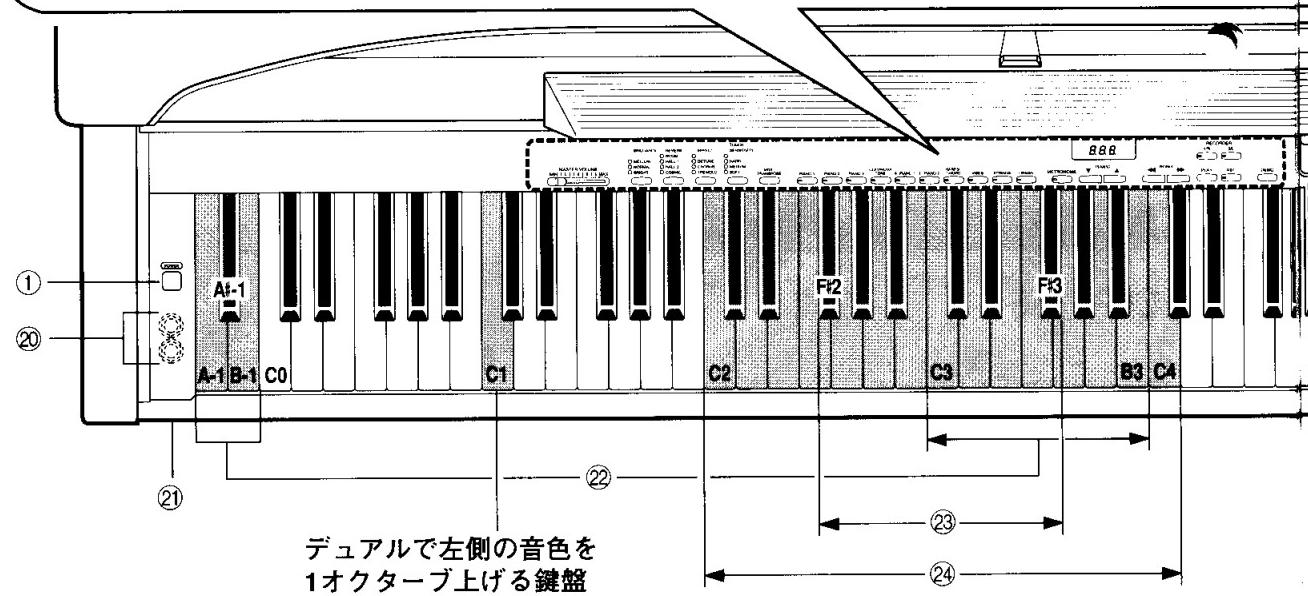
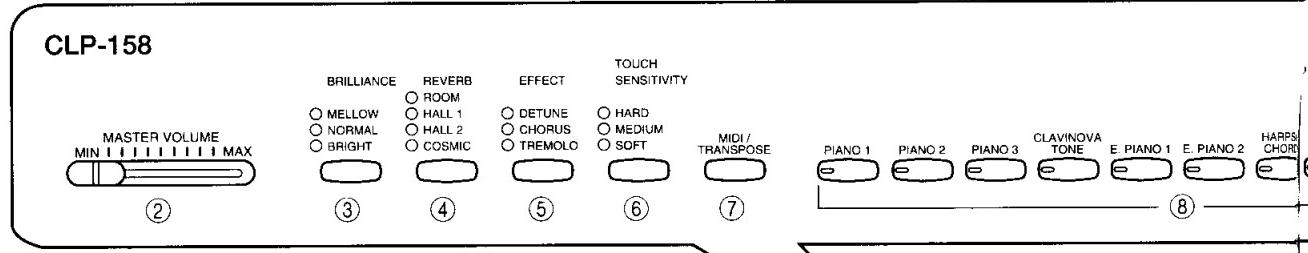
矢印(→)のページに詳しく説明しています。

はじめて

CLP-156



CLP-158



① 電源スイッチ [POWER] →4ページ

電源をオン/オフするスイッチです。このスイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと切れます。

② ポリューム [MASTER VOLUME] →4ページ

音量を調節するためのスライダーです。

③ ブリリアンスボタン [BRILLIANCE] →16ページ

このボタンを押すことで、音の明るさ(音質)を3段階に切り換えることができます。

④ リバーブボタン [REVERB] →17ページ

このボタンを押してランプを点灯させると、演奏音に残響が付け加わり、音の響きが豊かになります。

⑤ エフェクトボタン [EFFECT] (CLP-158のみ) →19ページ

このボタンを押してランプを点灯させると、演奏音に特殊な変化を与えることができます。

⑥ タッチセンシティビティボタン [TOUCH SENSITIVITY] (CLP-158のみ) →43ページ

このボタンを押すことで、弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを、4種類の中から選択できます。

⑦ MIDI/トランスポーズボタン [MIDI/TRANSPOSE] →44、53~55ページ

MIDI(ミディ)機能の設定をするときや、トランスポーズ(移調)の設定をするときに使用します。

⑧ 音色ボタン →8ページ

演奏に使う音色を選ぶことができます。

同時に2つのボタンを押すことで、2つの音色を重ねて演奏することもできます。(デュアル機能 →21ページ)

⑨ メトロノームボタン [METRONOME] →24ページ

このボタンを押してランプを点灯させると、メトロノーム音が加わります。

⑩ ディスプレイ

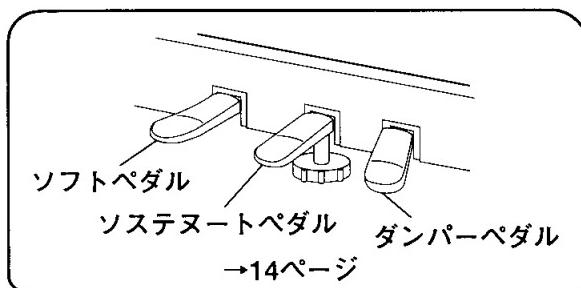
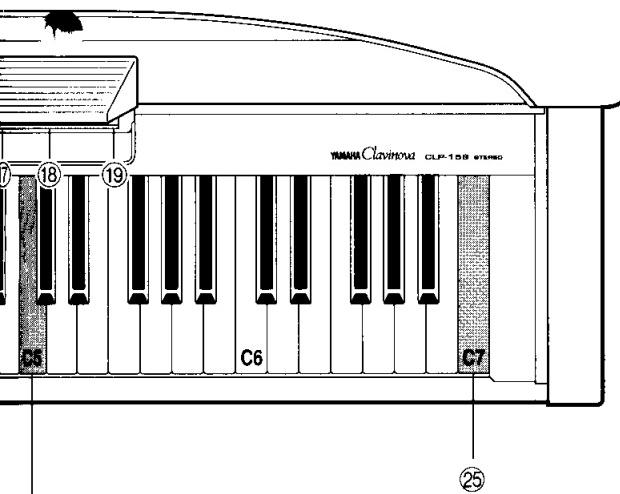
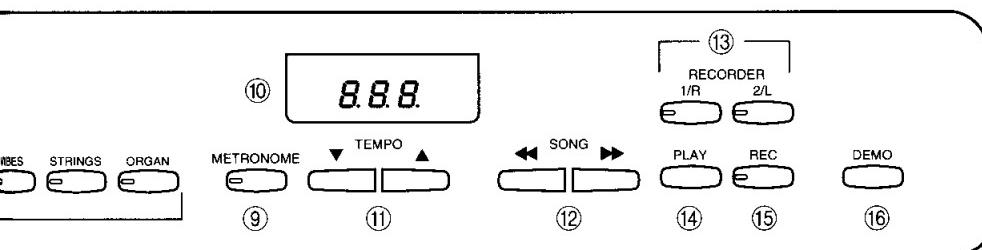
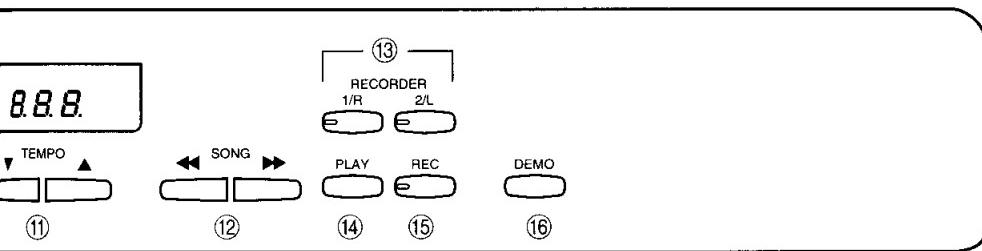
テンポ、曲番号、小節番号、各種設定値などを表示します。

⑪ テンポボタン [TEMPO] →25ページ

テンポを調節するためのボタンです。

⑫ ソングボタン [SONG] →27ページ

曲番号を選択するためのボタンです。



デュアルで右側の音色を
1オクターブ上げる鍵盤
→22ページ

- ⑬ **トラックボタン [1/R、2/L]** →28、35ページ
録音や再生するトラックを選択するためのボタンです。
 - ⑭ **プレイボタン [PLAY]** →27ページ
再生するときに押すボタンです。
 - ⑮ **レコードボタン [REC]** →33ページ
録音するときに押すボタンです。
 - ⑯ **デモボタン [DEMO]** →12ページ
デモ演奏を聴くときに押すボタンです。
 - ⑰ **ユーズランプ** →26ページ
 - ⑯ **ディスク挿入口** →26ページ
 - ⑲ **イジェクトボタン** →26ページ
 - ⑳ **ヘッドフォン端子 [PHONES]** (裏面にあります)
ヘッドフォンを接続する端子です。ヘッドフォンを接続すると、クラビノーバのスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかけることがありません。
2つのヘッドフォンを接続することができますので、お子レッスンをもう一人の方が確認したり、アンサンブルも可能です。耳をあまり刺激しないように、適度な音量でご使用ください。

- ㉑ **電源ランプ** →4ページ
電源を入れると点灯し、切ると消灯します。
 - ㉒ **ピッチコントロール用鍵盤** →45ページ
ピッチ(音程)の設定で使用する鍵盤です。
 - ㉓ **トランスポーズ用鍵盤** →44ページ
トランスポーズ(移調)の設定で使用する鍵盤です。
 - ㉔ **バランス/深さ調整用鍵盤** →17、21ページ
デュアル機能での音量バランスや、リバーブ効果の深さを設定するときに使用する鍵盤です。
 - ㉕ **メモリー用鍵盤**
→16、17、19、22、43、46、51ページ
いろいろな設定を記憶させるとときに使用する鍵盤です。

リアバネルの説明は51、52ページをご覧ください。

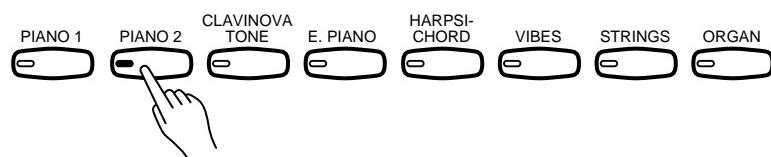
さあ！弾いてみましょう

1 音色の指定

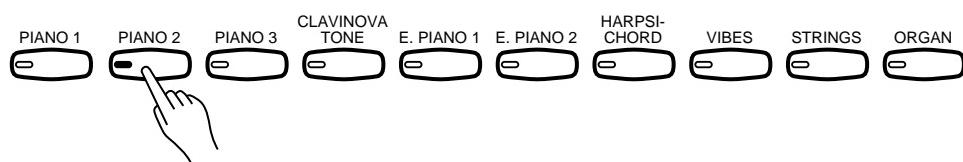
演奏したい音色のボタンを押します。
ランプが点灯します。

CLP-156

- ・次ページの音色一覧表を参考にしてください。

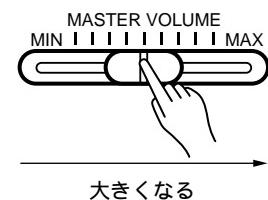


CLP-158



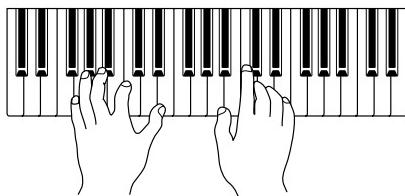
2 音量調節

ボリューム(MASTER VOLUME)で音量を調節します。



大きくなる

3 演奏



いろいろな音色に切り換えて、弾いてみましょう。

- ・次ページ以降に、音色のイメージにあった楽譜を用意しています。これらの楽譜を指定された音色で弾いてみましょう。

音色一覧表

| 音 色 | CLP-156 | CLP-158 | 音のイメージ |
|-------------------------------|---------|---------|---|
| ピアノ1 (PIANO 1) | | | CLP-156 : 2種類のグランドピアノの音です。ピアノ1はステレオサンプリングされたダイナミックで豊かな響き、ピアノ2は明るめで張りのある音です。 |
| ピアノ2 (PIANO 2) | | | CLP-158 : 3種類のグランドピアノの音です。いずれの音色も、ステレオサンプリングされた豊かな響きです。ピアノ1はダイナミックな響き、ピアノ2はまろやかで伸びの良い音、ピアノ3はポップス向けの明るめの音です。 |
| ピアノ3 (PIANO 3) | | | |
| クラビノーバトーン (CLAVINOVA TONE) | | | ストリングス風の温かい音色とハープ風の固めの音をミックスした新しいイメージの音です。 ドビュッシーなど、夢のある曲にお勧めです。 |
| エレクトリックピアノ (E.PIANO) | | | 固めのクリアなエレクトリックピアノの音色です。 |
| エレクトリックピアノ1 (E.PIANO 1) | | | |
| エレクトリックピアノ2 (E.PIANO 2) | | | 一頃のエレクトリックピアノを連想させるマイルドで伸びのある音色です。 |
| ハープシコード (HARPSICHORD) | | | バロック音楽などでよく使われる、ピアノの原形ともいわれる鍵盤楽器ハープシコードの音色です。チェンバロともいいます。 |
| バイブ (VIBES) | | | ジャズなどでよく使われる、鉄琴の一種ビブラフォンの音色です。 |
| ストリングス (STRINGS) | | | バイオリンなどの、弦楽器アンサンブルの音色です。 |
| オルガン (ORGAN) | | | パイプオルガンの音色です。 |

-  **補足** ・ ピアノの音色は、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしています。そのため、音域によっては倍音が強調されて聴こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合があります。
 ・ クラビノーバにはさまざまな効果や機能がありますが、それらは後で順に紹介していきます。

次の楽譜を参考にして、それぞれの音色で演奏してみてください。

CLP-156 : ピアノ1、2 (PIANO 1), (PIANO 2)

CLP-158 : ピアノ1～3 (PIANO 1)～(PIANO 3)

トルコ行進曲

作曲:L.v. Beethoven

この楽譜はPDF上では表示されません。

演 奏

クラビノーバトーン (CLAVINOVA TONE)

恋におちて

作曲：小林明子

この楽譜はPDF上では表示されません。

日本音楽著作権協会(出)許諾第9460024-401号

CLP-156 : エレクトリックピアノ (E.PIANO)

CLP-158 : エレクトリックピアノ1、2 (E.PIANO 1), (E.PIANO 2)

ムーン・リバー

作曲：Henry Mancini

この楽譜はPDF上では表示されません。

Moon RIVER from the Paramount firm "BREAKFAST AT TIFFANY'S" Word by Johnny Mercer Music by Henry Mancini © 1961 by FAMOUS MUSIC CORP.
All rights reserved. Used by permission. Authorized to NICHION, INC. for sale only in Japan. 日本音楽著作権協会(出)許諾第9460024-401号

ハープシコード (HARPSICHORD)

主よ人の望みの喜びよ

作曲：J.S. Bach

この楽譜はPDF上では表示されません。

演
奏

バイブ (VIBES)

オリジナル

この楽譜はPDF上では表示されません。

ストリングス (STRINGS)

アイネ・クライネ・ナハトムジーク

作曲：W.A. Mozart

この楽譜はPDF上では表示されません。

オルガン (ORGAN)

もろびとこぞりて

作曲：G.F. Händel

この楽譜はPDF上では表示されません。

デモ演奏を聴いてみましょう

クラビノーバには、デモ演奏が各音色について1曲ずつ内蔵されており、いつでも自由に聴くことができます。

CLP-156 : 8曲

CLP-158 : 10曲

演
奏

1

デモ演奏の選曲状態に入る



デモ(DEMO)ボタンを押します。

音色ボタンのランプが順に点滅し、デモ演奏の選曲待ち状態になります。

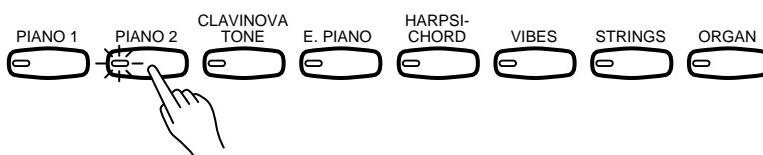
2

曲をスタートさせる

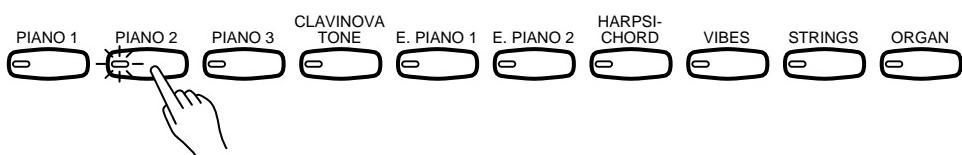
デモ演奏を聴きたい音色ボタンを押します。

◆ 押したボタンのランプが点滅し、その音色に応じたデモ演奏がスタートします。その後、ストップさせるまで音色ボタンの順番に連続演奏されます。

CLP-156



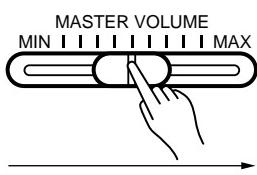
CLP-158



- ・デモ演奏中、別の音色ボタンを押すと、そのデモ曲に切り換わります。
- ・デモ演奏中の音色ボタンをもう一度押すと、デモ演奏はストップして再び選曲待ちの状態に戻ります。

3

音量調節



ボリューム(MASTER VOLUME)で音量を調節します。

大きくなる

4

デモ演奏状態から抜けれる



デモボタンを押します。

デモ演奏状態から抜け、通常の状態に戻ります。

補足 · デモ演奏のテンポは変更できません。

デモ曲一覧表

| 音色 | CLP-156 | CLP-158 | 曲名 | 作曲者 |
|-------------------------------|---------|---------|--------------------|-------|
| ピアノ1 (PIANO 1) | | | 練習曲変ト長調op.10-5「黒鍵」 | ショパン |
| ピアノ2 (PIANO 2) | | | 「ル・ローヌ」 | 服部克久 |
| ピアノ3 (PIANO 3) | | | 「メープル・リーフ・ラグ」 | ジョプリン |
| クラビノーバトーン (CLAVINOVA TONE) | | | 「なき王女のためのパヴァーヌ」 | ラベル |
| エレクトリックピアノ (E.PIANO) | | | オリジナル | |
| エレクトリックピアノ1 (E.PIANO 1) | | | オリジナル | |
| エレクトリックピアノ2 (E.PIANO 2) | | | オリジナル | |
| ハーブシコード (HARPSICHORD) | | | 「かっこう」 | ダカン |
| バイブ (VIBES) | | | 叙情小曲集第3集より「蝶々」 | グリーグ |
| ストリングス (STRINGS) | | | 「シャルメーヌ」 | ボラック |
| オルガン (ORGAN) | | | 「主よ人の望みの喜びよ」 | バッハ |

 補足 · デモ演奏は、1曲すべてでなく部分的に抜粋しているものもあります。

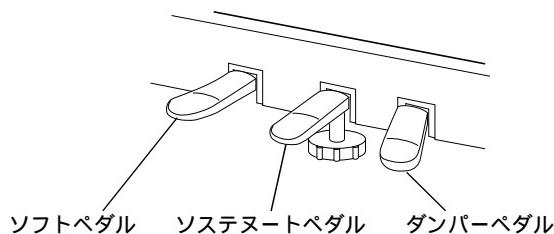
ピアノプレーヤソフト紹介ディスクについて

付属のピアノプレーヤソフト紹介ディスクの再生方法については、「ディスクの再生」(27ページ)をご覧ください。

- ピアノプレーヤソフト紹介ディスクの曲は、市販のピアノプレーヤソフト(29ページ参照)からの抜粋です。

ペダル効果

クラビノーバのスタンド部分には、ピアノと同じようにダンパー、ソステヌート、ソフトというペダルがついています。各ペダルの効果をうまく使い分けましょう。



1 ダンパーペダル

アコースティックピアノを演奏する際に最もよく使うペダルです。

ペダルを踏むと、すべての音に余韻がかかります。

ペダルを踏み込むほど8段階に音の余韻が長くなり、響きが豊かになります。

- CLP-156の場合は、ピアノ1、2の音色でリバーブの設定がオフのとき、アコースティックピアノの弦と響板の響きをシミュレートした共鳴効果がかかります。
- CLP-158の場合は、ピアノ1、2、3の音色のとき、アコースティックピアノの弦と響板の響きをシミュレートした共鳴効果がかかります。

2

ソステヌートペダル

ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけに余韻が付きます(ソステヌート効果)。ペダルを踏んだ後に弾いた音には、余韻は付きません。

低音部の音だけを響かせながら、右手でメロディを弾くときなどに使用します。

音色をピアノ1にして、初めの「ド」を弾いた直後にソステヌートペダルを踏み(ソステヌートペダルを踏むまで「ド」の音は離さない)、効果を確認してください。初めの「ド」の音だけがのびたのがわかりますね。ソステヌート効果は、ドビュッシーの「月の光」などに使われています。

3

ソフトペダル

音量がわずかに下がると同時に、音の響きが柔らかくなります。

- CLP-158の場合は、ペダルを踏み込む深さにより、8段階に微調整できます。

ブリリアンス効果

音の明るさ(音質)を3段階に変えることができます。

演
奏

1 ブリリアンス効果の設定

BRILLIANCE

- MELLOW
- NORMAL
- BRIGHT



ブリリアンス(BRILLIANCE)ボタンを何度か押して、希望するブリリアンスのランプを点灯させてください。ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

メロー(MELLOW) 柔らかく、まろやかな音になります。

ノーマル(NORMAL) 標準状態です。

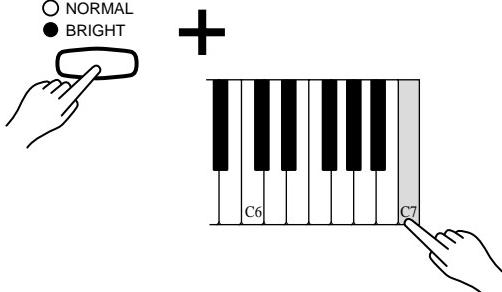
ライト(BRIGHT) 明るく、鋭い音になります。

- ・ 設定したブリリアンスは、電源をオフにするまで記憶されます。

2 設定を記憶させる場合

BRILLIANCE

- MELLOW
- NORMAL
- BRIGHT



電源をオフにした後も設定を記憶させておきたい場合は、ブリリアンスボタンを押しながら、C7(右端)の鍵盤を押します。



- 補足
- ・ 設定を記憶させた場合は、電源オフ後約1週間記憶され続けます。続けて記憶させる場合は、最低1週間おきに30秒以上電源を入れるようにしてください。
 - ・ 工場出荷時には、ブリリアンスの設定はノーマルになっています。

リバーブ効果

リバーブは、音に残響を付け加えて、音の響きを豊かにする効果です。

1 リバーブのタイプの設定

- REVERB
 ROOM
 HALL 1
 HALL 2
 COSMIC



リバーブ(REVERB)ボタンを何度か押して、希望するリバーブのランプを点灯させてください。

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

オフ(ランプ消灯) リバーブはかかりません。
 ルーム(ROOM) 韶きやすい部屋の中で弾いたときのような音になります。

ホール1 (HALL 1) 小さなコンサートホールで弾いたときのような音になります。

ホール2 (HALL 2) 大きなコンサートホールで弾いたときのような音になります。

コズミック(COSMIC) ... こだまのような響きが加わった音になります。

- リバーブのタイプは、全音色に共通の設定です。

2 リバーブの深さ調整

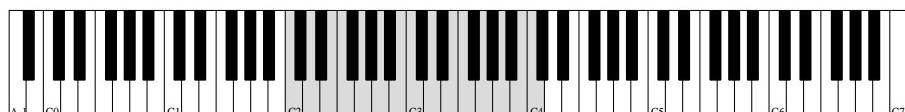
リバーブボタンを押しながら、C2～C4の鍵盤を押すことで、各音色についてリバーブのタイプごとに(次ページの表を参照)、リバーブの深さ(かかり具合)を調整することができます。

C2で最小(深さ = 0)、C4で最大(深さ = 15)となります。

操作中は、ディスプレイに設定値が表示されます。

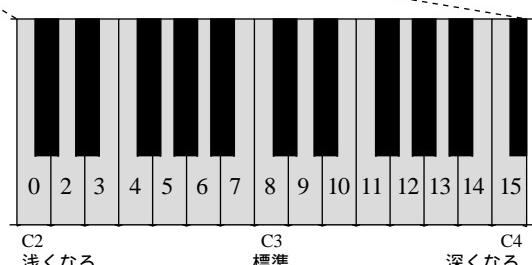
- 設定したリバーブの深さは、電源をオフにするまで記憶されます。
- たとえば、オルガンを非常によく響く小さなコンサートホールで弾いたときのような音にしたい場合は、オルガンの音色を選び、リバーブをホール1に設定し、改めてリバーブボタンを押しながら、C4(最大値15の鍵盤)を押します。

- REVERB
 ROOM
 HALL 1
 HALL 2
 COSMIC



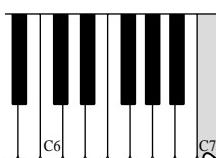
15

リバーブの深さ
(ディスプレイに表示される設定値)



3 設定を記憶させる場合

- REVERB
 ROOM
 HALL 1
 HALL 2
 COSMIC



電源をオフにした後も設定を記憶させておきたい場合は、リバーブボタンを押しながら、C7(右端)の鍵盤を押します。

- 1回の操作で、今選んでいるリバーブのタイプと、各音色についてリバーブのタイプごとに設定した深さのすべて(次ページの表を参照)が記憶されます。

4

効果を確かめよう

それでは、リバーブを切り換えるながら次の楽譜を演奏して、効果を実際に確かめてみましょう。

ロンドン橋

イギリス民謡

この楽譜はPDF上では表示されません。



補足 ・ 設定を記憶させた場合は、電源オフ後約1週間記憶され続けます。続けて記憶させる場合は、最低1週間おきに30秒以上電源を入れるようにしてください。

- ・ リバーブのタイプは全音色に共通の設定です。工場出荷時には、ルームとなっています。
- ・ リバーブの深さは、リバーブボタンを押しながら、テンポ(TEMPO)ボタンを押すことでも設定できます。

リバーブ + テンポ▼：深さが浅くなる。

リバーブ + テンポ▲：深さが深くなる。

リバーブ + テンポ▼ + テンポ▲：深さが標準の8になる。

- ・ リバーブボタン + C2～C4の白鍵による方法では、深さ=1は設定できませんが、リバーブボタン + テンポボタンによる方法では設定できます。
- ・ リバーブの深さは、音色およびリバーブのタイプごとに設定できます。工場出荷時には、リバーブの深さは下表のようになっています。()内は設定値に対応する鍵盤です。

CLP-156

| 音色 | タイプ | ルーム | ホール1 | ホール2 | コズミック |
|------------|--------|--------|---------|---------|-------|
| ピアノ1 | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | |
| ピアノ2 | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | |
| クラビノーバトーン | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | |
| エレクトリックピアノ | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | |
| ハープシコード | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | |
| バイブ | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | |
| ストリングス | 8 (C3) | 8 (C3) | 11 (F3) | 10 (E3) | |
| オルガン | 8 (C3) | 8 (C3) | 11 (F3) | 10 (E3) | |

CLP-158

| 音色 | タイプ | ルーム | ホール1 | ホール2 | コズミック |
|-------------|--------|--------|---------|---------|-------|
| ピアノ1 | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | |
| ピアノ2 | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | |
| ピアノ3 | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | |
| クラビノーバトーン | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | |
| エレクトリックピアノ1 | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | |
| エレクトリックピアノ2 | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | |
| ハープシコード | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | |
| バイブ | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | |
| ストリングス | 8 (C3) | 8 (C3) | 11 (F3) | 10 (E3) | |
| オルガン | 8 (C3) | 8 (C3) | 11 (F3) | 10 (E3) | |

エフェクト効果(CLP-158のみ)

音を揺らしたり、音に拡がり感を付けたりすることができる効果です。

1 エフェクトのタイプの設定



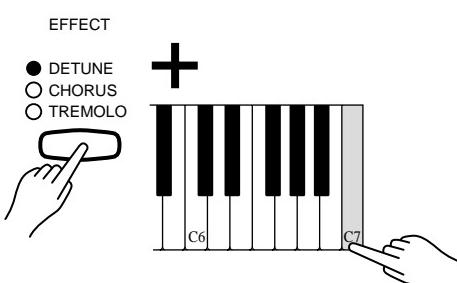
エフェクトをかけたい音色を選び、エフェクト(EFFECT)ボタンを押して希望する効果のランプを点灯させてください。

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

- オフ(ランプ消灯) エフェクトはかかりません。
デチューン(DETUNE) ... 音程が微妙にずれた2つの音
が同時に鳴って、厚みのある
音になります。
コーラス(CHORUS) 2つの音が揺れ動き、拡がり
のある音になります。
トレモロ(TREMOLO) ... 音量が小刻みに揺れる効果で
す。

- ・エフェクトのタイプは、音色ごとに設定されますので、各音色に最も合ったエフェクトをあらかじめ設定しておくことができます。
- ・設定したエフェクトは、電源をオフにするまで記憶されます。

2 設定を記憶させる場合



電源をオフにした後も設定を記憶させておきたい場合は、エフェクトボタンを押しながら、C7(右端)の鍵盤を押します。

- ・1回の操作で、各音色に設定したタイプすべてが記憶されます。

3 効果を確かめよう

それでは、音色とエフェクトを切り換えて、次の楽譜を演奏して、効果を実際に確かめてみましょう。

音色をピアノ3、エフェクトをデチューンにして弾いてみましょう。

エンターテイナー

作曲 : S. Joplin

この楽譜はPDF上では表示されません。

演
奏

演 奏

音色をエレクトリックピアノ1または2、エフェクトをコーラスにして弾いてみましょう。

ムーン・リバー

作曲：Henry Mancini

この楽譜はPDF上では表示されません。

Moon RIVER from the Paramount firm "BREAKFAST AT TIFFANY'S" Word by Johnny Mercer Music by Henry Mancini © 1961 by FAMOUS MUSIC CORP.
All rights reserved. Used by permission. Authorized to NICHION, INC. for sale only in Japan. 日本音楽著作権協会(出)許諾第9460024-401号

音色をパイプ、エフェクトをトレモロにして弾いてみましょう。

オリジナル

この楽譜はPDF上では表示されません。

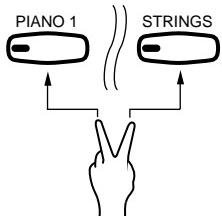
-
-  **補足** · 設定を記憶させた場合は、電源オフ後約1週間記憶され続けます。続けて記憶させる場合は、最低1週間おきに30秒以上電源を入れるようしてください。
· エフェクトは音色ごとに設定できるため、たとえばデュアル状態(次ページ参照)では、選んだ2つの音色に別々のエフェクトが設定されます。
· 工場出荷時には、エフェクトの設定は下表のようになっています。

| 音 色 | エフェクト |
|-------------|-------|
| ピアノ1 | オフ |
| ピアノ2 | オフ |
| ピアノ3 | オフ |
| クラビノーバトーン | オフ |
| エレクトリックピアノ1 | オフ |
| エレクトリックピアノ2 | コーラス |
| ハープシコード | オフ |
| パイプ | トレモロ |
| ストリングス | オフ |
| オルガン | オフ |

デュアル機能

2つの音色を選んで、重ねて演奏することができます。

1 デュアル状態に入る

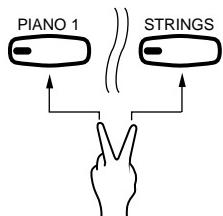


組み合わせたい2つの音色ボタンを同時に押します。
ランプが点灯します。

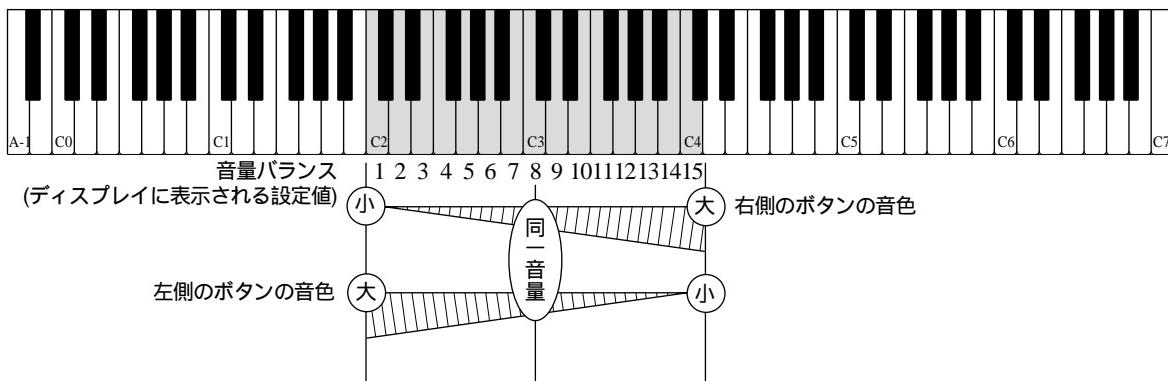
2 音量バランスの設定

組み合わせた2つの音色ボタンを押しながら、C2～C4の鍵盤を押すことで、2つの音色の音量バランスを設定できます。

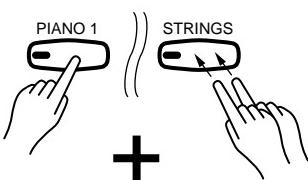
⌚ 操作中は、ディスプレイに設定値が表示されます。



10



3 ストリングスのアタック(音の立ち上がる速さ)の設定



2つの音色の片方の音にストリングスを選んだ場合、ストリングスのアタック(音の立ち上がる速さ)を、スローアタック(ゆっくりとした立ち上がり)に切り換えることができます。電源をオンにしたときはノーマルアタック(標準的な立ち上がり)になっています。

組み合わせた2つの音色ボタン(片方はストリングスのボタン)を押し、ストリングスのボタンだけを一度離して、もう一度押し直すことで、ストリングスのアタックをスローアタックに切り換えることができます。

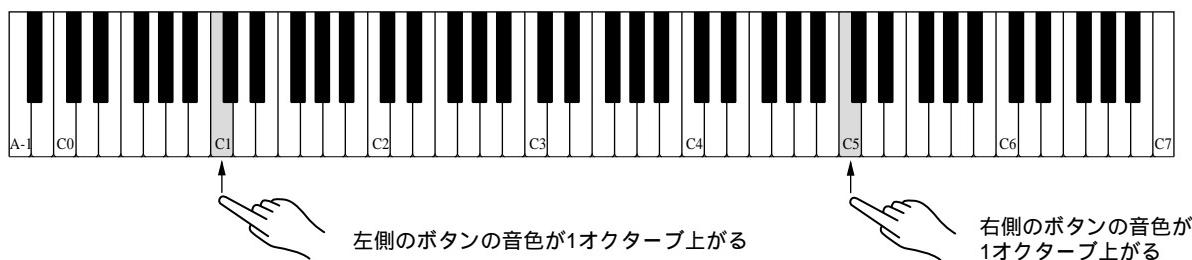
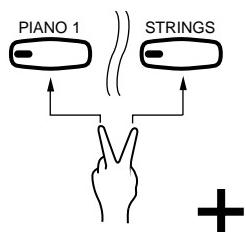
もう一度同じ操作をすると、ノーマルアタックに戻ります。

演
奏

4 片方を1オクターブ上げる設定

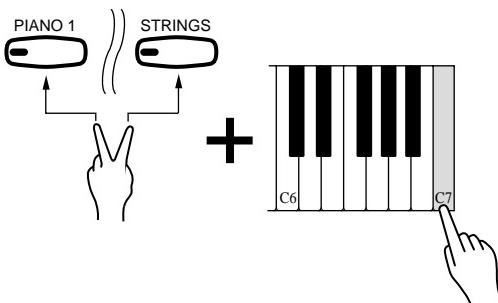
組み合わせた2つの音色ボタンを押しながら、C5の鍵盤を押すと …… 右側に配置されているボタンの音色が、1オクターブ上がります。

C1の鍵盤を押すと …… 左側に配置されているボタンの音色が、1オクターブ上がります。



- ・ いずれの場合も、もう一度同じ操作をすると、元の音程に戻ります。
- ・ 設定した音量バランスやストリングスのアタック、オクターブの切り替えは、電源をオフにするまで記憶されます。

5 設定を記憶させる場合



電源をオフにした後も設定を記憶させておきたい場合は、組み合わせた2つの音色ボタンを押しながら、C7(右端)の鍵盤を押します。

- ・ 1回の操作で、各音色の組み合わせごとに設定した内容すべて(音量バランス、ストリングスのアタック、オクターブの設定)が記憶されます。

6 デュアルで演奏してみよう

それでは、ピアノ1とストリングスのデュアル状態にして、ストリングスはスローアタックにして、次の楽譜を演奏してみましょう。

星に願いを

作曲 : Leigh Harline

この楽譜はPDF上では表示されません。



- ・ 設定を記憶させた場合は、電源オフ後約1週間記憶され続けます。続けて記憶させる場合は、最低1週間おきに30秒以上電源を入れるようしてください。
- ・ 工場出荷時には、ストリングスのアタックはノーマルアタックになっています。
- ・ 音量バランスは、組み合わせた2つの音色ボタンを押しながら、テンポ(TEMPO)ボタンを押すことでも設定できます。
 - 2つの音色 + テンポ▼：左側音色の音量バランスが上がる。
 - 2つの音色 + テンポ▲：右側音色の音量バランスが上がる。
 - 2つの音色 + テンポ▼ + テンポ▲：2音色同一音量(設定値が標準の8)になる。
- ・ 音量バランスとオクターブの切り替えは、音色の組み合わせごとに設定できます。工場出荷時には、下表のようになっています。
- ()内は設定値に対応する鍵盤です。

CLP-156

| | | 音量バランス | | | | | | | |
|----------|------------------------|--------|--------|------------------------|----------------|---------------------|--------|--------|--------|
| | | ピアノ1 | ピアノ2 | クラビノーバー ^{トーン} | エレクトリック ピアノ | ハープシ ^{コード} | パイプ | ストリングス | オルガン |
| オクターブの設定 | ピアノ1 | | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 4 (F2) | 3 (E2) |
| | ピアノ2 | 0 | | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 4 (F2) | 3 (E2) |
| | クラビノーバー ^{トーン} | 0 | 0 | | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 4 (F2) | 4 (F2) |
| | エレクトリック ピアノ | 0 | 0 | 0 | | 8 (C3) | 8 (C3) | 4 (F2) | 3 (E2) |
| | ハープシ ^{コード} | 0 | 0 | 0 | 0 | | 8 (C3) | 4 (F2) | 5 (G2) |
| | パイプ | R | R | R | R | R | | 7 (B2) | 7 (B2) |
| | ストリングス | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | L | | 8 (C3) |
| | オルガン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | L | 0 | |

CLP-158

| | | 音量バランス | | | | | | | | | |
|----------|------------------------|--------|--------|--------|------------------------|-----------------|-----------------|---------------------|--------|--------|--------|
| | | ピアノ1 | ピアノ2 | ピアノ3 | クラビノーバー ^{トーン} | エレクトリック ピアノ1 | エレクトリック ピアノ2 | ハープシ ^{コード} | パイプ | ストリングス | オルガン |
| オクターブの設定 | ピアノ1 | | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 4 (F2) | 3 (E2) |
| | ピアノ2 | 0 | | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 4 (F2) | 3 (E2) |
| | ピアノ3 | 0 | 0 | | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 4 (F2) | 3 (E2) |
| | クラビノーバー ^{トーン} | 0 | 0 | 0 | | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 4 (F2) | 4 (F2) |
| | エレクトリック ピアノ1 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 8 (C3) | 8 (C3) | 8 (C3) | 4 (F2) | 3 (E2) |
| | エレクトリック ピアノ2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 6 (A2) | 8 (C3) | 4 (F2) | 4 (F2) |
| | ハープシ ^{コード} | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 8 (C3) | 4 (F2) | 5 (G2) |
| | パイプ | R | R | R | R | R | R | R | | 7 (B2) | 7 (B2) |
| | ストリングス | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | L | | 8 (C3) |
| | オルガン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | L | 0 | |

0 : 同一オクターブ

L : 左側音色1オクターブ上

R : 右側音色1オクターブ上

1 (C2) : 左側音色最大音量 / 右側音色最小音量

:

8 (C3) : 同一音量

:

15(C4) : 左側音色最小音量 / 右側音色最大音量

:

メトロノーム機能

正確なテンポで演奏したいときは、クラビノーバのメトロノームをお使いください。

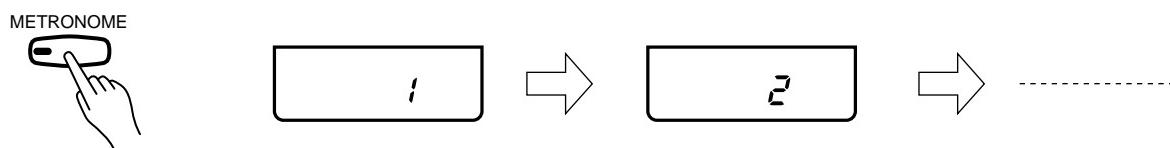
1

メトロノームをスタートさせる

メトロノーム(METRONOME)ボタンを押します。

メトロノームボタンのランプが点灯し、メトロノームがスタートします。

ディスプレイに小節番号が表示されます。手順3で、拍子の設定が「アクセントなし」の場合は、4拍ごとに小節が変わります。



- 自分の演奏を録音したディスクや、スタンダードMIDIファイルディスクの再生中に押すと、再生のタイミングに合わせて、メトロノームが鳴ります。(付属のピアノプレーヤソフト紹介ディスクや、ピアノプレーヤソフトのディスクがディスクドライブユニットに入っているときは、メトロノームは鳴りません。)

2

メトロノームの音量調節

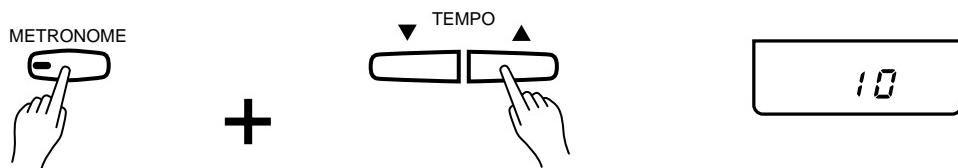
メトロノームボタンを押しながら、テンポボタンを押すことで、メトロノームの音量を1~15の範囲で調節できます。数字を大きくするほど、音量が上がります。

メトロノーム + テンポ : 音量が下がる。

メトロノーム + テンポ : 音量が上がる。

メトロノーム + テンポ + テンポ : 音量が標準の8になる。

操作中は、ディスプレイに設定値が表示されます。

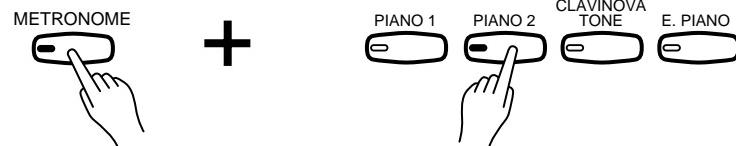


3

拍子の設定

メトロノームボタンを押しながら、音色ボタンを押すことで、メトロノームの拍子を設定できます。音色ボタンには、次のように拍子が割り当てられています。

CLP-156



CLP-158



4

テンポの調節

テンポボタンを押すことで、メトロノームの速さ(1分間の拍数)を $\text{♩} = 32 \sim 280$ の範囲で調節できます。

テンポ↓：テンポが遅くなる。

テンポ↑：テンポが速くなる。

テンポ+テンポ：テンポが標準の $\text{♩} = 120$ (ディスク再生時は、その曲の再生初期テンポ)になる。

操作中は、ディスプレイに設定値が表示されます。



5

メトロノームを止める



メトロノームボタンを押します。

⌚ メトロノームボタンのランプが消灯して、メトロノームが止まります。



- 補足**
- ・テンポの調節のときに、テンポボタンを0.5秒以上押し続けると、値が連続的に変化します。
 - ・ディスクの曲を再生させながらメトロノームを鳴らしているとき、レコーダーのプレイ(PLAY)ボタンを押して再生をストップさせると、メトロノームも止まります。
 - ・電源オン時には、メトロノームの音量設定は8、拍子の設定は「アクセントなし」、テンポの設定は $\text{♩} = 120$ になっています。

ディスプレイについて

ディスプレイの表示は、操作に応じて次のように変わります。

通常：テンポが表示されます。

メトロノームをスタートさせると：小節番号が表示されます。

ディスクを入れると：ソングナンバーが表示されます。

ディスクの再生/録音中：小節番号が表示されます。

効果または機能の設定中：設定値などが表示されます。

フロッピーディスクの取り扱い

これから説明する「再生と録音」では、付属のフロッピーディスクを使います。付属のフロッピーディスクには、次の2種類があります。

ピアノプレーヤソフト紹介ディスク：

演奏データが記録されている再生専用のディスクです。

録音用ブランクディスク：

なにもデータが記録されていない録音/再生用のディスクです。

フロッピーディスクは、扱いかたを間違えると記録したデータを失いかねません。

フロッピーディスクとディスクドライブユニットをご愛用いただくために、ご使用時には以下のことをお守りください。

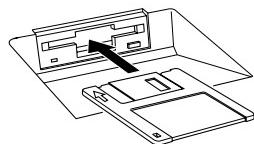
■フロッピーディスクの種類

- この製品には、「3.5インチ2DDマイクロフロッピーディスク」をご使用ください。

■フロッピーディスクの挿入/取り出し

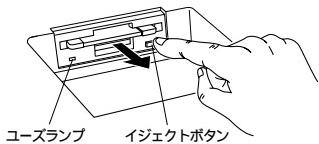
◇ フロッピーディスクの入れかた

- フロッピーディスクのシャッターに文字が書かれている方(表面)を上にして、イラストのように、ディスク挿入口にカチッと音がするまでていねいに差し込みます。



◇ フロッピーディスクをディスク挿入口から取り出すときのご注意

- ディスク挿入口左下のユーズランプが消えたことを確認した後(ディスクドライブが実行中でないことを確認した後)、イジェクトボタンをしっかりと正確に押し、フロッピーディスクが完全に出たことを確認してから取り出してください。



- イジェクトボタンを中途半端に押したり、あわてて押すと、取り出し機構が正常に作動せず、フロッピーディスクが途中で引っかかり取り出せなくなる場合があります。この場合、無理にフロッピーディスクを取り出そうとすると、ディスクがこわれたりディスクドライブユニットが故障したりする原因になります。このような場合は、もう一度イジェクトボタンを押さないでください、またはフロッピーディスクをディスク挿入口に完全に押し込んで、もう一度イジェクトボタンをしっかりと正確に押しなおして取り出してください。

◇ 録音中や再生中などは、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ディスクのデータがこわれるだけでなく、ディスクドライブユニットの故障の原因になります。

◇ 電源を切るときは、フロッピーディスクはあらかじめディスクドライブユニットから取り出してください。電源を切った後、フロッピーディスクを入れたまま長時間放置すると、ディスクが汚れ、データの読み書きにエラーが生じる原因になります。

◇ イジェクトボタンを押してディスクが半分出た状態(ディスクを手で抜き取っていない状態)のままで、キーカバーを開閉しないでください。キーカバーとディスクが接触してディスクやディスクドライブユニットが破損するおそれがあります。

■磁気ヘッドの定期的なクリーニング

- ディスクドライブユニットは、高精度の磁気ヘッドを使用しています。ディスクドライブユニットを長時間使用していくうちに、磁気ヘッドはフロッピーディスクの磁性粉で汚れてしまします。磁気ヘッドが汚れてくると、録音や再生(データの書き込みや読み取り)にエラーが生じことがあります。
- ディスクドライブユニットを良い状態でお使いいただくために、磁気ヘッドを定期的に(1ヵ月に1回程度)クリーニングしてくださいことをお勧めします。
- 磁気ヘッドのクリーニングには、市販の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をご使用ください。なお、65ページのヤマハ電気音響製品サービス拠点で、ヤマハ推奨の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をお求めいただくこともできます。

■フロッピーディスクについてのご注意

◇ フロッピーディスクの取り扱いと保管

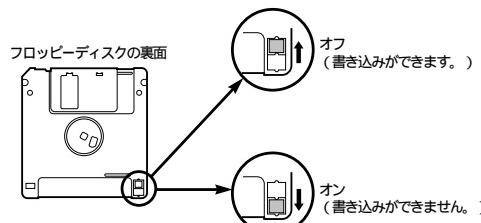
フロッピーディスクの中にはデータを記録する磁性体が入っています。磁性体を保護し、さらにディスクドライブユニットの磁気ヘッドを保護するために、以下の点にご注意ください：

- (持ち運ぶ場合も含めて)必ず市販のケースに入れて保管し、落したり、物を乗せたり、折り曲げたりしないでください。また、ディスク内部に水やホコリなどが入らないようにしてください。
- ディスクのシャッターを開けて、内部の磁性体に触れないでください。
- 磁気を帯びた物(テレビやスピーカーなど)には近づけないでください。
- 直射日光の当たる場所や、過度に高温/低温の場所、多湿な場所などに置かないでください。
- シャッターやディスク本体が変形しているようなフロッピーディスクは、絶対に使用しないでください。
- フロッピーディスクには、ラベル以外の物(メモなど)を貼らないでください。また、ラベルは所定の位置に、はがれないようにしっかりと貼ってください。

◇ 誤消去防止

フロッピーディスクには、誤ってデータを消してしまうことがないように、ライトプロテクトタブが付いています。

大切なデータが入っているディスクは、ライトプロテクトタブをオン(タブの窓が開いた状態)にして書き込みができないようにしてください。



◇ データのバックアップ

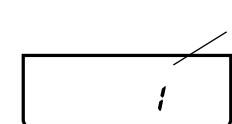
- フロッピーディスクの万一の事故に備えて、大切なデータは、バックアップとして予備のディスクに保存しておかれることをお勧めします。

◇ 市販フロッピーディスクの中には粗悪品もございます。メーカー名をお確かめのうえ、お求めください。

ディスクの再生

付属のピアノプレーヤソフト紹介ディスクや、自分の演奏を録音したディスクを再生させてみましょう。

1 ディスクを入れる



ソングナンバー“1”

再生させるディスクを正しい向きと方向で、ていねいに差し込みます。

ディスプレイにソングナンバー“1”が表示されます。

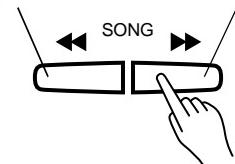
- 録音用ディスクを入れないで録音したデータが本体に残っていた場合、付属のピアノプレーヤソフト紹介ディスクや、ピアノプレーヤソフト(29ページ参照)のディスクを差し込むと、その時点で残っていたデータは消えてしまいます。また、自分の演奏を録音したディスクを差し込むと、ソングナンバー“1”表示になりませんが、そのまま2の操作に進むと、その時点で残っていたデータは消えてしまいます。データを消したくない場合は、データが消される前に本体のデータを録音用ディスクにコピーしてください(34ページの 補足 参照)。

2 曲を選ぶ

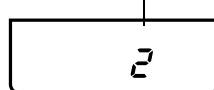
ソング(SONG_{YY}またはSONG_{ff})ボタンで、聴きたい曲を選びます。

- 1/Rボタンまたは2/Lボタンのランプが緑色に点灯するソングナンバーに、データが記録されています。

ソングナンバーが
小さくなる



ソングナンバーが
大きくなる



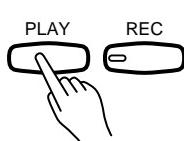
聴きたい曲のナンバー



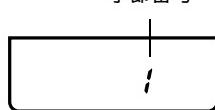
データが記録されて
いると緑色に点灯

- ここで「ALL」を選ぶと、1曲めからすべての曲を続けて再生させることができます。

3 再生を始める



小節番号



プレイ(PLAY)ボタンを押します。

再生が始まります。ディスプレイに小節番号が表示されます。

- 曲によっては、小節番号がズれて表示されることがあります。

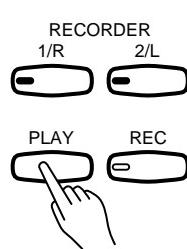
・再生音に合わせて、演奏することができます。

- 付属のピアノプレーヤソフト紹介ディスクや、ピアノプレーヤソフト(29ページ参照)の再生時は、再生音色がパネルの音色ボタンでも選ばれ、再生音色を切り換えることもできます。この場合、演奏音も同じ音色になります。その他のディスクの再生時は、再生音色はパネルの音色ボタンでは選ばれず、再生音色を切り換えることはできません。演奏音色は、パネルの音色ボタンで切り換えることができます。

4 音量を調節する

ボリュームで音量を調節します。

5 再生を終わらす

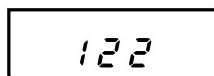
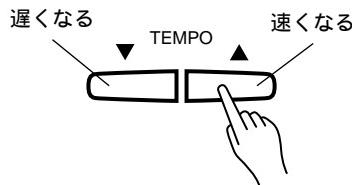


もう一度プレイボタンを押します。

- 曲の最後まで再生させたときは、プレイボタンを押さなくても再生が終わります。

テンポを変える

テンポを変更することができます。



遅くする：テンポボタンを押します。

速くする：テンポボタンを押します。

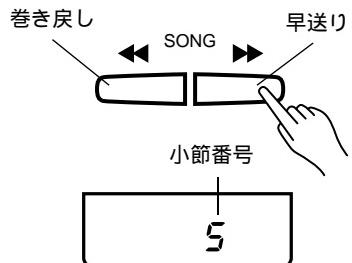
もとのテンポに戻す：テンポとテンポボタンを、同時に押します。

操作中は、ディスプレイに設定値が表示されます。

(付属のピアノプレーヤーソフト紹介ディスクや、ピアノプレーヤーソフトディスクの再生時は“___”の表示になります。)

曲の巻き戻し/早送り

再生中に巻き戻し、早送りができます。



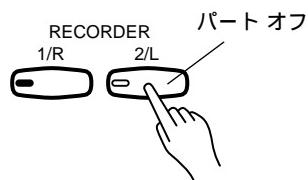
巻き戻す：再生中にソング \ll ボタンを押します。

早送りする：再生中にソング \gg ボタンを押します。

ディスプレイに小節番号が表示されます。早送りのときは、早送り音が聞こえます。

片方のパートをオフにしたいとき

トラックボタンのランプが緑色に点灯する場合は、そのトラックにデータが記録されています。トラックボタンを押して緑色のランプを消灯させると、そのトラックの再生をオフにすることができます。



オフにする：オフにする方のトラック(1/Rまたは2/L)ボタンを押します。

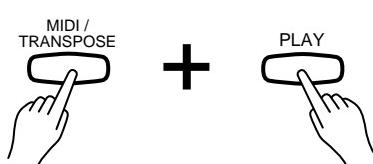
緑色のランプが消灯します。

オンに戻す：オフにした方のトラックボタンを、もう一度押します。

緑色のランプが点灯します。

全曲リピート再生

前ページ2の「曲を選ぶ」の操作で「ALL」を選ぶと、1曲目からすべての曲を続けて再生させることができます。また、下記の方法で、現在選択されている曲から連続再生させることもできます。

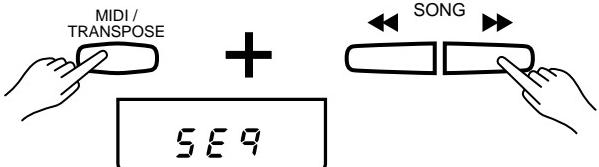


続けて再生させる：MIDI/トランスポーズ(MIDI/TRANSPOSE)ボタンを押しながら、プレイ(PLAY)ボタンを押します。

再生を終わる：プレイボタンを押します。

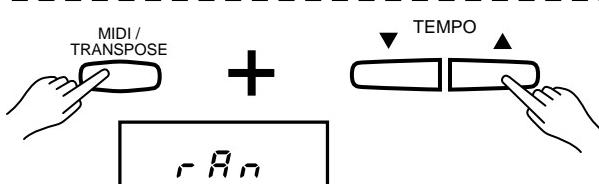
全曲ランダムリピート再生

曲順不同で、続けて再生させることができます。



曲順不同でリピート再生させる：

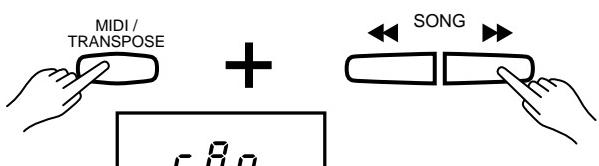
MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ディスプレイに“SEQ”が表示されるまで、ソング YY ボタンまたはソング ff ボタンを押します。



MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、テンポまたはテンポボタンを押します。

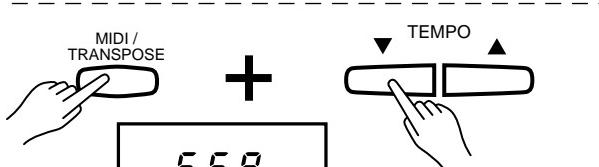
MIDI/トランスポーズボタンを押している間はディスプレイに“rAn”が表示されます。

前ページ「全曲リピート再生」の操作にしたがって再生させます。



曲順不同を解除して、リピート再生させる：

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ディスプレイに“rAn”が表示されるまで、ソング YY ボタンまたはソング ff ボタンを押します。



MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、テンポまたはテンポボタンを押します。

MIDI/トランスポーズボタンを押している間はディスプレイに“SEQ”が表示されます。

前ページ「全曲リピート再生」の操作にしたがって再生させます。

再生可能なディスク

付属のピアノプレーヤソフト紹介ディスクや自分の演奏を録音したディスク以外にも、次のディスクを再生させることができます。

ピアノプレーヤソフト：ピアノプレーヤのための別売ソフトですが、一部のタイトルを除いて再生が可能です。

スタンダードMIDIファイル(フォーマット0のみ)：

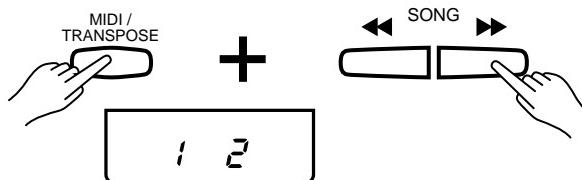
その曲で指定されている音色に近いパネル音色が、自動的に選ばれて再生されます。

市販のスタンダードMIDIファイルのディスクなどでは、トラック1と2以外にデータが入っているものもありますが、CLP-156/158ではトラック1と2のデータだけがCLP-156/158で再生され、それ以外のトラックのデータはMIDI OUT端子(52ページ参照)から出力されます(トラック1と2のデータはMIDI出力されません)。ただし、「ディスク再生トラックの選択」機能(次ページ参照)を使えば、トラック1、2の代わりに他のトラックを再生させることができます。(その場合、選ばれた再生トラック以外のデータが、MIDI OUT端子から出力されます。)

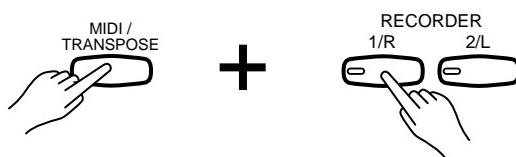
スタンダードMIDIファイルに関しては38ページをご覧ください。

ディスク再生トラックの選択

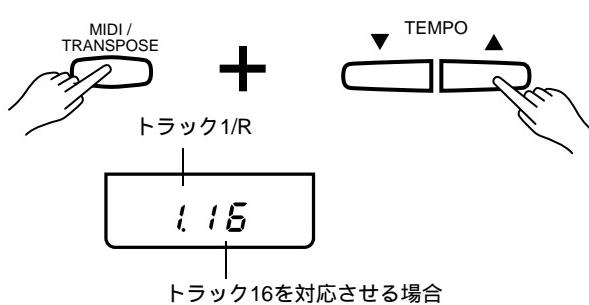
CLP-156/158では、通常はディスクのトラック1と2のデータが再生されますが、市販のスタンダードMIDIファイルのディスクや外部シーケンサーで作ったトラック1と2以外にもデータが入っているディスクの他のトラックを再生させたい場合は、トラック1~16の中から任意の2つのトラックを指定して、CLP-156/158で再生させることができます。



トラック1/Rに対応させるトラック番号の選択：
MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ディスプレイに“1 2”が表示されるまで、ソング yy ボタンまたはソング ff ボタンを押します。

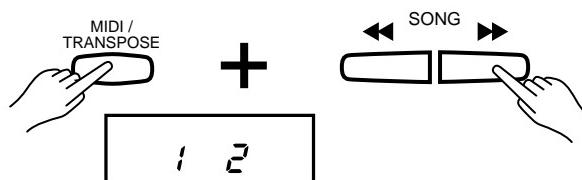


MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、1/Rボタンを押します。

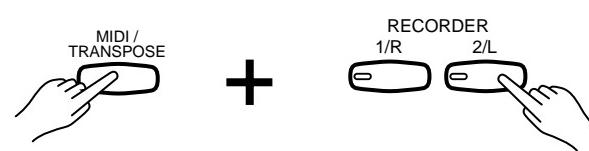


MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、トラック1/Rに対応させるトラック番号がディスプレイに表示されるまで、テンポ またはテンポ ボタンを押します。“_”を表示させるとオフになります。

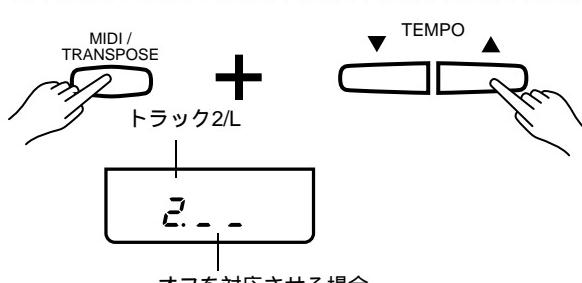
MIDI/トランスポーズボタンを押している間はディスプレイに設定内容が表示されます。



トラック2/Lに対応させるトラック番号の選択：
MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ディスプレイに“1 2”が表示されるまで、ソング yy ボタンまたはソング ff ボタンを押します。



MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、2/Lボタンを押します。



MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、トラック2/Lに対応させるトラック番号がディスプレイに表示されるまで、テンポ またはテンポ ボタンを押します。“_”を表示させるとオフになります。

MIDI/トランスポーズボタンを押している間はディスプレイに設定内容が表示されます。

補足 · フロッピーディスクを入れ換えると、ディスク再生トラックの選択は解除されてトラック1/Rはトラック1に、トラック2/Lはトラック2に戻ります。

SMF(スタンダードMIDIファイル)再生音色の選択

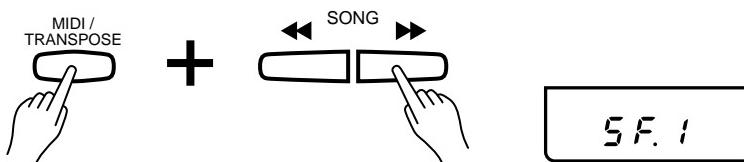
市販の多くのSMF(スタンダードMIDIファイル)データ(38ページ参照)は、GM(General MIDI)規格(図¹補足参照)に準拠した音色配列で制作されています。CLP-156/158でこれらのSMFデータを再生すると、通常はデータ中の音色番号を自動的にGM音色配列で読み取り、GM音色に近いパネル音色に自動的に切り換えて再生されます。この機能では、CLP-156/158のパネル音色を使ってコンピューターなどの外部シーケンサーで録音したSMFデータを再生させる場合などに、音色番号をパネル配列のままで読み取り、(GM音色に近いパネル音色に切り換えずに)そのままのパネル音色で再生されるようにすることができます。

- ・ディスクが入っていないと、この機能は使えません。

1 選択の状態に入る

ディスプレイに“SF.1”、“SF.2”的どちらかが表示されるまで、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ソング^{FF}またはソング_{FF}ボタンを押します。

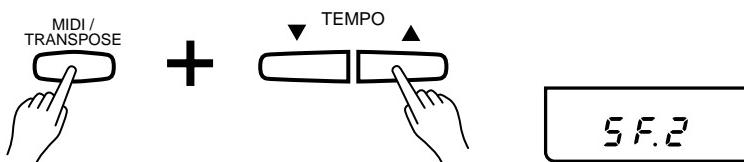
SMF再生音色の選択の状態に入ります。



2 選択する

MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、テンポ[▼]またはテンポ_▲ボタンを押すことで、SMF再生音色を選択できます。

- ◆ 操作中は、ディスプレイに設定が表示されます。



GM音色SMF再生(SF.1) SMFデータの場合に、データ中の音色番号をGM音色配列で読み取り、GM音色に近いパネル音色に自動的に切り換えて再生されます。

一般SMF再生(SF.2) SMFデータにGM onメッセージがあれば上記(SF.1)と同じ方式で再生され、GM onメッセージがなければ音色番号をパネル配列のままで読み取り、そのままのパネル音色で再生されます。コンピューターなどの外部シーケンサーでCLP-156/158のパネル音色を使って録音したSMFデータを、CLP-156/158で再生させる場合は、この状態を選びます。



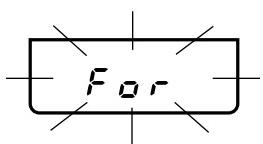
- 補足**
- ・電源オン時には、GM音色SMF再生(SF.1)になっています。
 - ・GM(General MIDI: ジェネラルミディ)規格とは、ディスク上の演奏データをメーカー・機種が異なっても、ほぼ同じ音色で再生できるようにと考え出された、データの音色配列や音の鳴りかたなどについての共通規格です。
 - ・CLP-156/158本体では、SMFデータのトラック1と2(または「ディスク再生トラックの選択」機能(前ページ参照)で選択した2つのトラック)のみ再生されます。それ以外のトラックのデータは、MIDI OUT端子から出力されます。

フロッピーディスクのフォーマット(初期化)

付属の録音用ブランクディスクや市販の新しいフロッピーディスクは、そのままでは使うことができません。CLP-156/158で使えるように、最初にフォーマット(初期化)しておく必要があります。

- ・使用中のディスクをフォーマットすると、それまでディスクに記録されていたデータはすべて消えてしまいますのでご注意ください。

1 ディスクを入れる

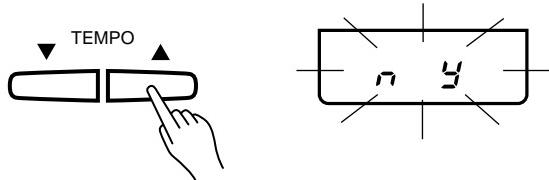


ディスクを正しい向きと方向で、ていねいに差し込みます。

フォーマットされていないディスクを差し込んだ場合、ディスプレイに“For”が点滅表示されます。

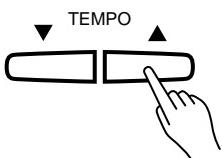
2 フォーマットの状態に入る

テンポ またはテンポ ボタンを押します。
ディスプレイが “ny” の点滅表示に変わります。



- ・データを記録済みの録音用ディスクをフォーマットする場合は、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ディスプレイに“For”が表示されるまで、ソング FF またはソング ff ボタンを押します。“ny”の点滅表示になったら、MIDI/トランスポーズボタンを離します。

3 イエスかノーを選ぶ

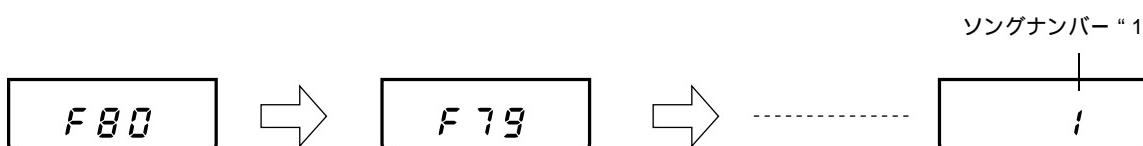


フォーマットを実行したい場合は、テンポ ボタン(Yes)を押します。

- ・フォーマットを中止したい場合は、テンポ ボタン(No)を押します。

テンポ ボタンを押した場合は、フォーマットがはじまります。

ディスプレイの値が、“F80”から1つずつ小さくなっていきます。フォーマットが終了すると、ディスプレイにソングナンバー“1”が表示されます。



補足 ・ディスクを入れていないと、フォーマットの状態に入りません。

- ・以下のディスクはフォーマットしようとしても、ディスプレイに“Pro”が表示されて、フォーマットできません。
 - ・付属のピアノプレーヤソフト紹介ディスク
 - ・別売のピアノプレーヤソフト
 - ・ライトプロテクトがオンになっているディスク

録音

CLP-156/158のレコーダーには2つのトラック(1/Rと2/L)があり、それぞれのトラックに1パートずつ録音して、1曲を仕上げることができます。たとえば、まずトラック1/Rにストリングスのパートを録音し、次にそれを聴きながら、トラック2/Lにピアノのパートを録音するというような要領です。

このようにしてできたものをソングと呼び、1枚のフロッピーディスクに60ソングまで保存しておくことができます。(1ソングのデータが大きい場合は、60ソングよりも少なくなってしまうこともあります。)

- ・それぞれのトラックに何のパートを入れるかは、自由に決めることができます。

トラック1/Rに録音する

はじめに、トラック1/Rに録音してみましょう。

1

フォーマット済みのディスクを入れる

フォーマット済みのディスクを差し込みます。

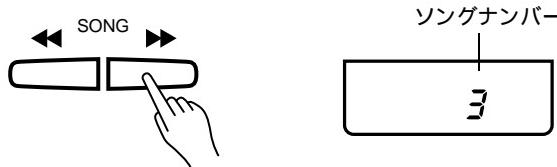
ディスプレイにソングナンバー“1”が表示されます。

- ・フォーマットされていないディスクを差し込んだ場合、ディスプレイに“For”が点滅表示されます。前ページの方法でフォーマットしてください。

2

録音するソングナンバーを選ぶ

ソング $\pm\pm$ またはソング ff ボタンで、録音したいソングナンバーを選びます。



- ・1/Rボタンまたは2/Lボタンのランプが緑色に点灯するソングナンバーには、すでにデータが記録されています。消したくない場合は、別のソングナンバーを選んでください。

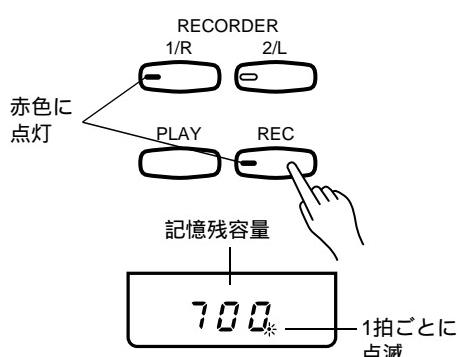
3

音色を選ぶ

録音したい音色のボタンを押します。

4

録音待機状態にする



レコード(REC)ボタンを押します。

レコードボタンと1/Rボタンのランプが赤色に点灯し、トラック1/Rへの録音待機状態になります。

レコードボタンを離すと、ディスプレイにそのディスクの記憶残容量が表示されます。また、ディスプレイの右端のドットランプが、テンポに合わせて点滅します。

- ・録音を中止するときは、もう一度レコードボタンを押します。

5

メトロノームを鳴らす場合

メトロノームボタンを押します。

- ・メトロノームのテンポや音量を調節したり、拍子を設定することができます(24ページ参照)。
- ・メトロノームの音は録音されません。

6

録音を始める

演奏を始めます。

鍵盤を押した時点から録音が始まります。ディスプレイに小節番号が表示されます。

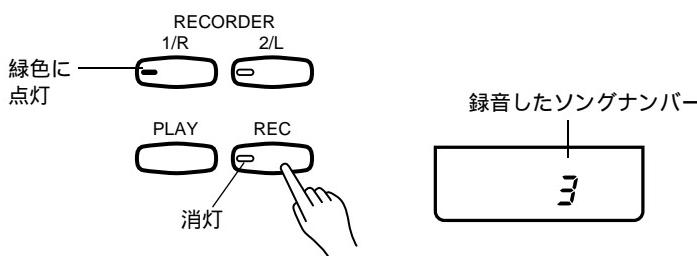
- ・曲のはじめに何拍かの無演奏部分が必要なときは、プレイ(PLAY)ボタンを押します。録音が始まりますので、必要な拍数だけ待ってから演奏を始めます。

7

録音を終わる

レコードボタンまたはプレイボタンを押します。

“rEc”が表示されている間は、ディスクにデータが書き込まれています。書き込みが終わると、レコードボタンのランプは消灯し、1/Rボタンが緑色に点灯して、トラック1/Rの再生待機状態になります。ディスプレイはソングナンバー表示に戻ります。



補足 ・録音は音符やペダル操作だけでなく、デュアル音色の組み合わせ、リバーブの種類など、36ページの表の内容が記録されます。演奏を始めるまで(手順5以前)に操作した音色選択、リバーブの種類などの情報は、その曲の初期値として記録されます。初期値は、あとで変更できます(36ページ参照)。

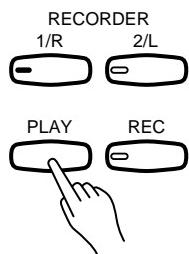
- ・記憶残容量の単位はk(キロ)バイトで、何も記録されていないディスクの記憶残容量は約700kバイトです(最大約57,000音符記録できますが、機能をたくさん使うと減ります)。また、記憶残容量がなくなると、“FUL”的表示になり、録音が終了します。
- ・ディスクを入れないで録音してしまったとき、短い曲であれば本体に記録されます(最大約600音符[8kバイト]記録できますが、機能をたくさん使うと減ります)。ただし次の操作をすると、その時点で消えてしまいます。
 - ・電源をオフにしたとき
 - ・付属のピアノプレーヤソフト紹介ディスクや、ピアノプレーヤソフトを入れたとき
 - ・コピーの操作をする前に、SMFのディスクや自分の演奏を録音したディスクを入れてソングナンバーを変えたとき

ディスクに保存しておきたい場合は、必ず以下の手順でコピーします。

- 1 MIDI/トランスポーズ(MIDI/TRANSPOSE)ボタンを押しながら、ディスプレイに“cPy”が表示されるまで、ソング y またはソング f ボタンを押します。“c $__$ ”の点滅表示になったら、MIDI/トランスポーズボタンを離します。
 - 2 テンポ▼またはテンポ▲ボタンで、コピー先のソングナンバーを選びます。
 - 3 コピー先ディスクを入れます。
 - 4 プレイボタンを押します。
- コピー先のソングナンバーに何もデータがないときは“cPy”的表示になり、コピー先ディスクにデータが書き込まれます。“ny”(no/yes)が表示されるソングナンバーには、すでにデータが記録されています。書き換える場合はテンポ▲ボタン(yes)を押すと、コピー先ディスクにデータが書き込まれます。書き換えたくない場合はテンポ▼ボタン(no)を押してコピーを中止し、操作をやり直します。

8

再生する



プレイボタンを押します。

トラック1の再生が始まります。ディスプレイに小節番号が表示されます。

- 再生音に合わせて、演奏することができます。

9

再生を終わる

もう一度プレイボタンを押します。

- 曲の最後まで再生させたときは、プレイボタンを押さなくても再生が終わります。

トラック2/Lに録音する

今録音したトラック1/Rを再生させながら、トラック2/Lに録音してみましょう。

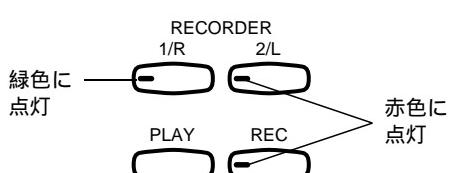
1

音色を選ぶ

トラック2/Lに録音したい音色のボタンを押します。

2

録音待機状態にする



レコードボタンを押したあと、2/Lボタンを押します。

レコードボタンと2/Lボタンのランプが赤色に点灯し、トラック2/Lへの録音待機状態になります。

トラック1/Rは緑色に点灯して再生待機状態です。

3

録音を始める

演奏を始めます。

鍵盤を押した時点からトラック2/Lへの録音が始まります。トラック1/Rの再生音を聴きながら、録音することができます。

- 曲の途中から演奏を始めるときは、プレイボタンを押します。再生音を聴いて、必要なところから演奏を始めます。

4

録音を終わる

レコードボタンまたはプレイボタンを押します。

ディスプレイがソングナンバー表示に戻るまで待ちます。



- 補足**
- 押鍵情報やペダル操作などトラックごとに記録される情報と、リバーブの種類などソングごと(両トラック共通)に記録される情報があります(次ページ参照)。
 - CLP-156/158以外で録音したデータのあるソングには、録音できません。レコードボタンを押した時点で、“no”が表示されます。

記録内容について

トラックごとに記録されるデータ

| データ | 初期値 | 録音中 | 録音後の初期値変更 | 操作 |
|----------------------|-----|-----|-----------|---------------------------|
| 押鍵情報 | × | | × | 押鍵 |
| 音色 | | | | 音色ボタン |
| ダンパー・ペダル | | | | ダンパー・ペダル |
| ソフトペダル | | | | ソフトペダル |
| ソステナートペダル | × | | × | ソステナートペダル |
| ブリリアンスの種類 | | | | ブリリアンスボタン |
| エフェクトの種類(CLPI-158のみ) | | | | エフェクトボタン |
| デュアル音色 | | | | 音色ボタン + 音色ボタン |
| デュアルバランス | | | | 音色ボタン + 音色ボタン + 鍵盤C2 ~ C4 |

ソングごと(両トラック共通)に記録されるデータ

| データ | 初期値 | 録音中 | 録音後の初期値変更 | 操作 |
|---------|-----|-----|-----------|---------------------|
| リバーブの種類 | | | | リバーブボタン |
| リバーブの深さ | | | | リバーブボタン + 鍵盤C2 ~ C4 |
| テンポ | | × | | テンポボタン |

初期値の変更

録音が終わったあとで、トラックごと、またはソングごとに初期値を変更することができます。変更できる内容は、上表をご覧ください。

ディスクを入れて、初期値を変更するソングナンバーを選びます。

レコードボタンを押します。

レコードボタンのランプが赤色に点灯して、録音待機状態になります。

変更するトラックを選んで、トラックボタンを押します。

押したボタンのランプが赤色に点灯して、録音待機状態になります。

パネルを操作して初期値を変更します。

レコードボタンを押します。

- 誤ってプレイボタンや鍵盤を押さないでください。プレイボタンや鍵盤を押すと録音が開始されてしまい、そのトラックの録音済みのデータが消えてしまいます。

ディスプレイがソングナンバー表示に戻ります。

- たとえばトラック1に録音したピアノ1の音色をエレクトリックピアノに変更したいときは、レコードボタンとトラック1ボタンを押してトラック1を録音待機状態にし、次にエレクトリックピアノの音色ボタンを押し、再びレコードボタンを押します。これでトラック1の音色はエレクトリックピアノに変更されます。
- ソングをコピーしてバックアップをとっておくことをおすすめします(40ページ参照)。

ソングデータの削除

録音した曲を削除することができます。

1

ディスクを入れる

2

曲削除の状態に入る

ディスプレイに “ dEL ” が表示されるまで、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ソング << またはソング >> ボタンを押します。

“ d ” 付きのソングナンバー表示になったら、MIDI/トランスポーズボタンを離します。

曲削除の状態に入ります。



3

削除するソングナンバーを選ぶ

テンポ またはテンポ ボタンで、削除するソングナンバー(d1 ~ d60)を選びます。



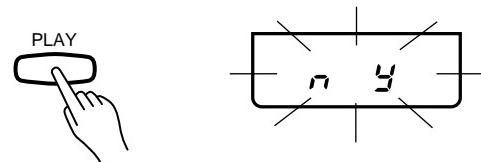
- 削除を途中で中止したいときは、ソング_{YY}またはソング_{FF}ボタンを押します。ただし、削除の実行が始まっている場合は中止できません。

4

削除を実行する

プレイボタンを押します。

ディスプレイが “ n y ” (no/yes)の点滅表示に変わります。



- 指定したソングナンバーにデータがなかった場合は、“ n y ” の表示にならずに、ソングナンバー表示になります。

削除を実行したい場合は、テンポ ボタン(yes)を押します。

- 削除を中止したい場合は、テンポ ボタン(no)を押します。

テンポ ボタン(yes)を押した場合は、削除が実行されます。削除が終了すると、ディスプレイにソングナンバーが表示されます。



- 【】補足**
- ・ディスクを入れていないと、曲削除の状態に入りません。
 - ・以下のディスクは曲を削除しようとしても、ディスプレイに“Pro”が表示されて、削除できません。
 - ・付属のピアノプレーヤソフト紹介ディスク
 - ・別売のピアノプレーヤソフト
 - ・ライトプロテクトがオンになっているディスク

トラックデータの削除

録音した曲の片方のトラックデータだけを、削除することができます。

ディスクを入れて、トラックデータを削除するソングナンバーを選びます。

削除したいトラックを、録音待機状態にします。

プレイボタンを2回押します(プレイボタンを押して録音を開始し、何もしないでもう一度プレイボタンを押して録音を終了させます)。

ESEQ→SMF(スタンダードMIDIファイル)変換

ディスク上の演奏データにはそれぞれフォーマット(データの形式)があり、再生するデータと、再生する機種が対応しているフォーマットが異なると再生できません。

CLP-156/158で録音したデータのフォーマットはESEQですが、この機能を使ってこれをスタンダードMIDIファイル(SMF)フォーマットに変換して、SMF対応の機種で再生できるようにすることができます。

ESEQ： ヤマハのクラビノーバCLP-156/158やCVPシリーズ、ピアノプレーヤ、シンセサイザーなどで採用されているヤマハ内で最も互換性の高い演奏データのフォーマットです。

SMF： コンピューターなどのシーケンサーで幅広く採用されている演奏データのフォーマットです。SMF(フォーマット0)対応の機種であれば、再生させたり、編集することが可能です。本機能で変換をすると、SMF(フォーマット0)になります。

- ・変換する前に、ソングコピー機能(40ページ参照)を使って変換する曲をコピーしてください。SMFデータに変換したあとは、ESEQデータに戻すことができません。また、SMFデータに変換したソングには、CLP-156/158本体で再録音することもできません。

1

ディスクを入れて、変換する曲を選ぶ

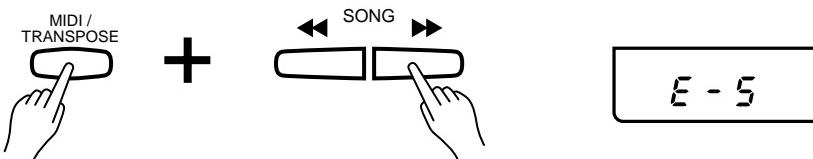
ソング<<またはソング>>ボタンで、変換する曲を選びます。

2

変換の状態に入る

ディスプレイに“E-S”が表示されるまで、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ソング<<またはソング>>ボタンを押します。

ESEQ SMF変換の状態に入ります。

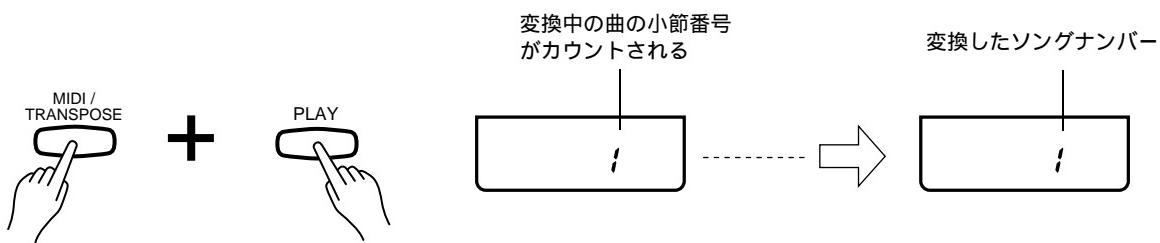


3

変換を実行する

MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、PLAYボタンを押します。

変換中は、ディスプレイに小節番号が表示されます。変換が終わると、ソングナンバー表示に戻ります。



- ・変換するソングナンバーにデータがない場合は、操作をしても変換は実行されません。

補足 以下のディスクやデータは、変換できません。

- 1 ピアノプレーヤソフト紹介ディスク、(例)ピアノプレーヤソフト、
- 2 ライトプロテクトタブがオンのディスク、(例)すでに変換済みのデータ

ソングコピー

ソングをコピーしてバックアップをとっておくと、曲を一部変更したいときなどに安心して行えます。

同じディスク内でソングをコピーする

録音した曲を別のソングナンバーにコピーしてみましょう。

1 ディスクを入れる

2 コピー元の曲を選ぶ

ソング<<またはソング>>ボタンで、コピー元の曲を選びます。

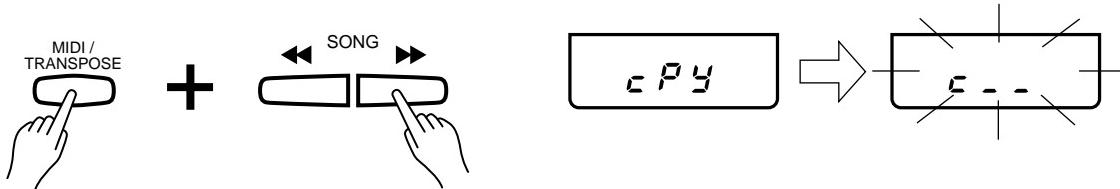
3 ソングコピーの状態に入る

ディスプレイに“cPy”が表示されるまで、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ソング<<またはソング>>ボタンを押します。

“c_”の点滅表示になったら、MIDI/トランスポーズボタンを離します。

ソングコピーの状態に入ります。

- ・コピー元のソングナンバーにデータがない場合は、ソングコピーの状態に入りません(“c_”の点滅表示になりません)。



4 コピー先のソングナンバーを選ぶ

テンポ またはテンポ ボタンで、コピー先のソングナンバー(c1 ~ c60)を選びます。

コピー先のソングナンバー



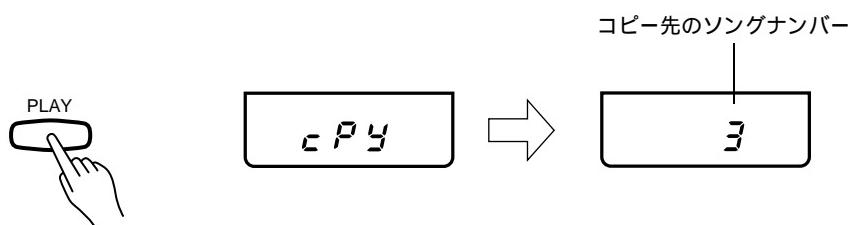
- ・ソングナンバーはc1 ~ c60とc1 ~ c60が循環して選ばれます。“c”の上に“-”が表示されるソングナンバー(c1 ~ c60)は、別のディスクにコピーするときの番号です。“-”が表示されないソングナンバー(c1 ~ c60)を選んでください。
- ・コピーを途中で中止したいときは、ソングFFFまたはソングffボタンを押します。ただし、コピーの実行が始まってからは中止できません。

5

コピーを実行する

プレイボタンを押します。

コピーが実行されると、ディスプレイに“cPy”が表示されます。コピーが終わると、ディスプレイには、コピー先のソングナンバーが表示されます。



- “n y”(no/yes)が表示されるソングナンバーには、すでにデータが記録されています。書き換えてよい場合はテンポボタン(yes)を押すと、コピーが実行されます。
書き換えたくない場合は、テンポボタン(no)を押してコピーを中止します。

別のディスクにソングをコピーする

録音した曲を別のディスクにコピーしてみましょう。

1

コピー元のディスクを入れる

2

コピー元の曲を選ぶ

ソング<<またはソング>>ボタンで、コピー元の曲を選びます。

3

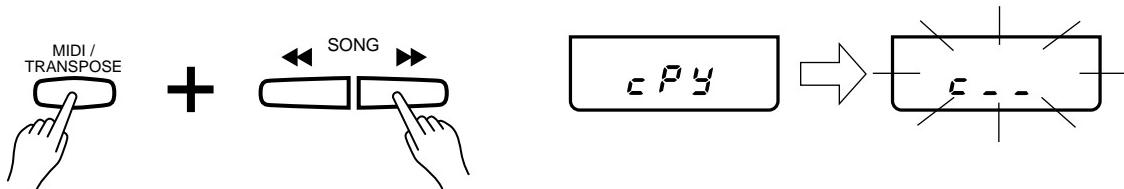
ソングコピーの状態に入る

ディスプレイに“cPy”が表示されるまで、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ソング<<またはソング>>ボタンを押します。

“c_”の点滅表示になったら、MIDI/トランスポーズボタンを離します。

ソングコピーの状態に入ります。

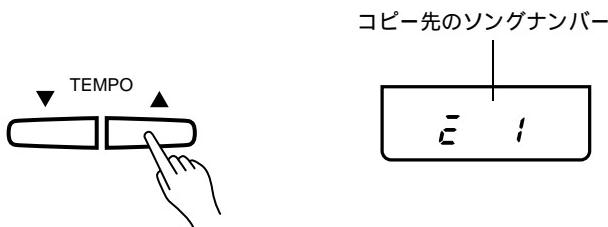
- コピー元のソングナンバーにデータがない場合は、ソングコピーの状態に入りません(“c_”の点滅表示になりません)。



4

コピー先のソングナンバーを選ぶ

テンポ またはテンポ ボタンで、コピー先のソングナンバー($\bar{c} 1 \sim \bar{c} 60$)を選びます。



- ソングナンバーは $c 1 \sim c 60$ と $\bar{c} 1 \sim \bar{c} 60$ が循環して選ばれます。“c”の上に“-”が表示されないソングナンバー($c 1 \sim c 60$)は、同じディスク内でコピーするときの番号です。“-”が表示されるソングナンバー($\bar{c} 1 \sim \bar{c} 60$)を選んでください。
- コピーを途中で中止したいときは、ソング \gg またはソング ff ボタンを押します。ただし、コピーの実行が始まってからは中止できません。

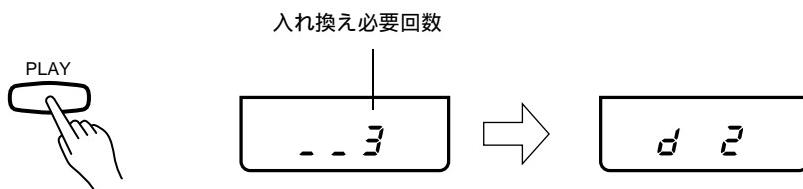
5

コピーを実行する

プレイボタンを押します。

まずコピー元ソングのデータが、クラビノーバ本体に読み込まれます。読み込み中はディスプレイに、このあとコピー先ディスクとコピー元ディスクを何回入れ換える必要があるのかが表示されます。

データが読み込まれるとディスプレイに“d 2”が表示されます。



コピー元ディスクを抜き、コピー先ディスクを入れます。

コピー先のソングナンバーに何もデータがないときは、コピー先ディスクにデータが書き込まれます。書き込み中はディスプレイに、このあとコピー先ディスクとコピー元ディスクを何回入れ換える必要があるのかが表示されます(入れ換え残り回数が0の場合は、“cPy”的表示になります)。

- “n y”(no/yes)が表示されるソングナンバーには、すでにデータが記録されています。書き換えてよい場合はテンポ ボタン(yes)を押すと、コピーが実行されます。
書き換えたくない場合は、テンポ ボタン(no)を押してコピーを中止します。

コピー元ディスクとコピー先ディスクを交互に入れ替えます。“d 1”が表示されたらコピー元ディスクを、“d 2”が表示されたらコピー先ディスクを入れます。

コピーが終わると、ディスプレイには、コピー先のソングナンバーが表示されます。



補足 · 以下のディスクやデータは、コピーできません。

- ピアノプレーヤソフト紹介ディスク、2 ピアノプレーヤソフト、
3 スタンダードMIDIファイル

- 以下のディスクには、データをコピーできません。

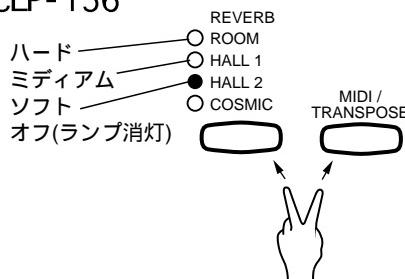
- ピアノプレーヤソフト紹介ディスク、2 ピアノプレーヤソフト、
3 ライトプロテクトタブがオンのディスク

タッチセンシティビティ調節機能

弾く強さによる音の強弱の変化の度合い(感度)を、4種類の中から選ぶことができます。
(鍵盤自体の重さは変わりません。)

1 タッチ感度を選ぶ

CLP-156

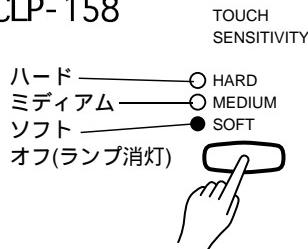


MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、リバーブボタンを押すことで、タッチ感度を4種類の中から選ぶことができます。希望する感度に対応するランプを点灯させてください。

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

操作中は、リバーブボタンのランプが設定を表示します。

CLP-158



タッチセンシティビティ(TOUCH SENSITIVITY)ボタンを押して、希望する感度のランプを点灯させてください。

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

ハード(HARD) ピアニッシモからフォルティッシモまでダイナミックな演奏ができるタッチです。

ミディアム(MEDIUM) 標準的なタッチです。

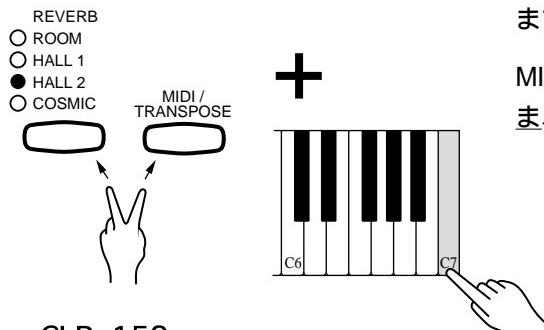
ソフト(SOFT) 比較的音のつぶがそろいややすいタッチです。

オフ(消灯) タッチによる強弱は付きません。

- ・タッチ感度は、全音色に共通の設定です。
- ・設定した感度は、電源をオフにするまで記憶されます。

2 設定を記憶させる場合

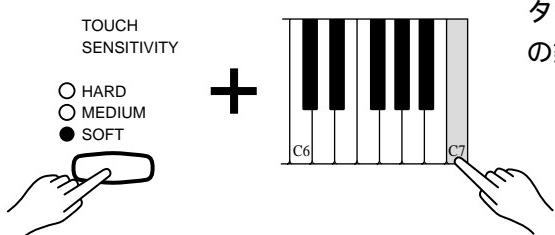
CLP-156



電源をオフにした後も設定を記憶させておくことができます。

MIDI/トランスポーズボタンとリバーブボタンを押したまま、C7(右端)の鍵盤を押します。

CLP-158



タッチセンシティビティボタンを押しながら、C7(右端)の鍵盤を押します。

- 補足** 音色によっては、効果の少ないものもあります。
- ・設定を記憶させた場合は、電源オフ後約1週間記憶され続けます。続けて記憶させる場合は、最低1週間おきに30秒以上電源を入れるようしてください。
 - ・工場出荷時には、タッチ感度はミディアムになっています。

トランスポーズ(移調)機能

押さえる鍵盤を変えずに、歌う人の声や他の楽器の高さに、キー(調)を合わせることができます。(つまり、弾く鍵盤の位置と発音される音の高さをずらすことができます。)

- ・ -6 ~ +6半音の範囲でずらすことができます。「ド」の音なら低い方に最大で「ファ#」(半オクターブ下)まで、高い方も最大で「ファ#」(半オクターブ上)までずらすことができます。
たとえば、+5半音ずらす(完全4度上げる)と、下の楽譜Aを弾くと、楽譜Bのように鳴ります。

A



B

移調量の設定

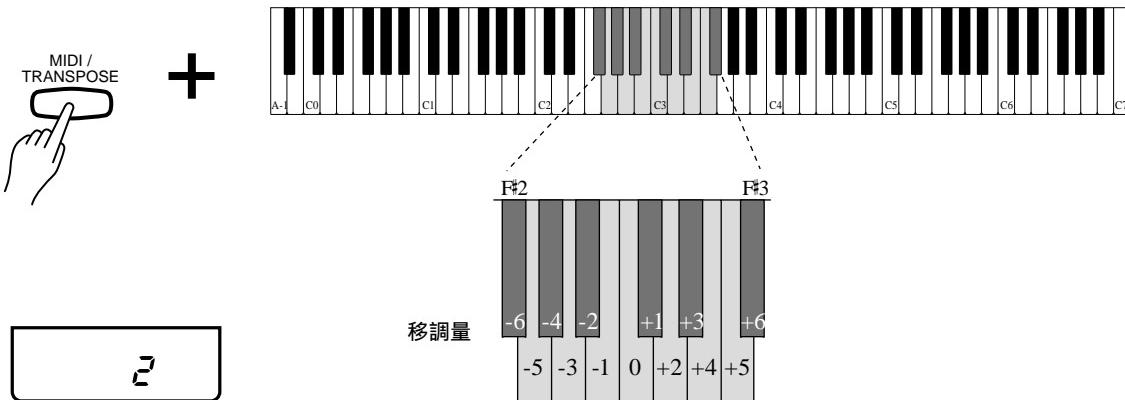
MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、F#2 ~ F#3の鍵盤を押すことで、移調量を設定できます。

操作中は、ディスプレイに設定値が表示されます。

F#2の鍵盤 ……-6半音に設定されます。

C3の鍵盤 ……0 (標準状態)です。

F#3の鍵盤 ……+6半音に設定されます。



補足 · 設定は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時には0(標準状態)に戻ります。

- 移調量は、MIDI / トランスポーズボタンを押しながら、テンポボタンを押すことでも設定できます。

MIDI / トランスポーズボタン + テンポ▼ : 移調量が下がる。

MIDI / トランスポーズボタン + テンポ▲ : 移調量が上がる。

MIDI / トランスポーズボタン + テンポ▼ + テンポ▲ : 移調量が標準の0になる。

- 移調によって、もとの88鍵の最高音より高くなった音は1オクターブ下の音で、もとの88鍵の最低音より低くなった音は1オクターブ上の音で鳴ります。

ピッチコントロール機能

合奏のときなどに、音程(ピッチ)を正確に合わせるための機能です。他の楽器と微妙に音程が異なる場合は、この機能を使って音の高さを合わせます。

- 約-50セント～約+50セントの範囲で、約1.2セントまたは約1ヘルツきざみの設定ができます(100セント=半音)。設定中は、ディスプレイにラの音(A3)の周波数(Hz:ヘルツ)が表示されます。

427

～

440

～

453

A3 = 427Hz

(約-50セント)

A3 = 440Hz

(標準)

A3 = 453Hz

(約+50セント)

- 周波数の小数点以下の値は次のように4分割されて、ディスプレイのドットランプで表示されます。

440(ドットなし): 0.00 ~ 0.24Hz, 4.40: 0.25 ~ 0.49Hz,

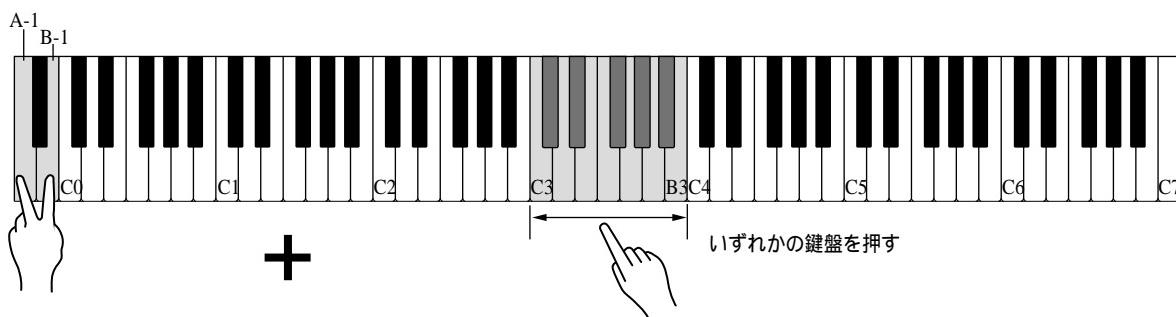
44.0: 0.50 ~ 0.74Hz, 440.: 0.75 ~ 0.99Hz

1.2セントきざみの合わせかた

1 音程を上げる

A-1とB-1の鍵盤(左端の白鍵2つ)を同時に押しながら、

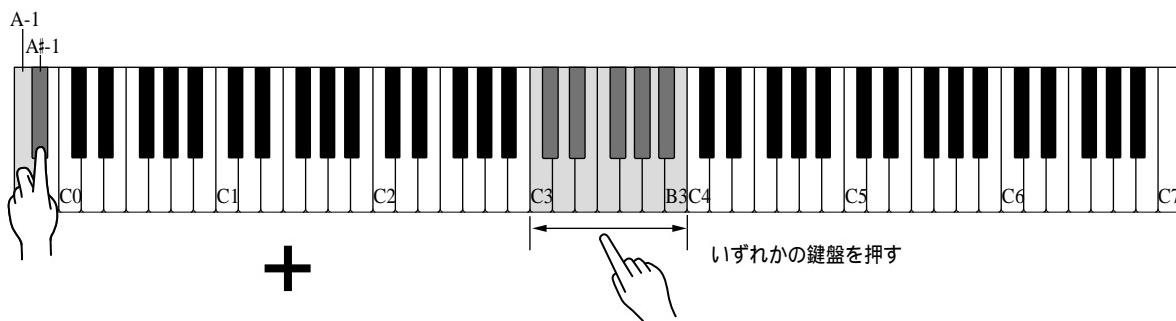
C3～B3のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに約1.2セントずつ音程が上がります。音を聴きながらこきざみに音程を上げて、他の楽器と合わせてください。



2 音程を下げる

A-1とA♯-1の鍵盤(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押しながら、

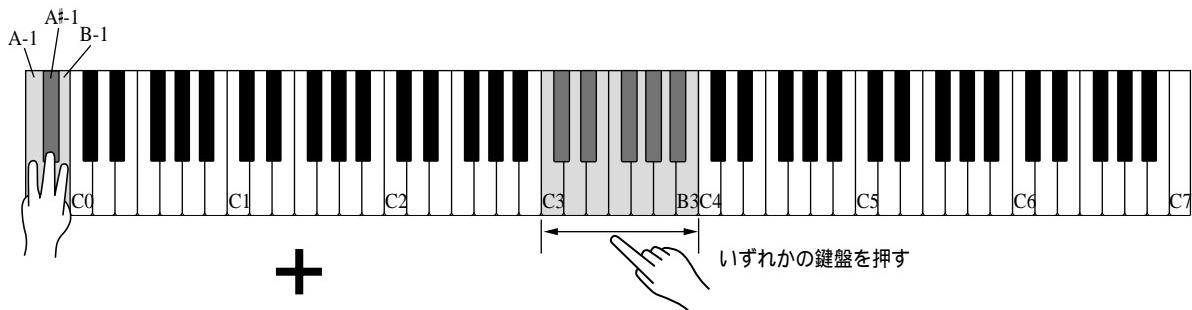
C3～B3のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに約1.2セントずつ音程が下がります。音を聴きながらこきざみに音程を下げて、他の楽器と合わせてください。



3

標準状態に戻すとき

A-1とA♯-1とB-1の鍵盤(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押しながら、C3～B3のいずれかの鍵盤を押します。



1ヘルツ(Hz)きざみの合わせかた

操作1～3の各 の鍵盤(A-1とB-1、またはA-1とA♯-1、またはA-1とA♯-1とB-1)を同時に押しながら、テンポボタンを押して設定します。

鍵盤 + テンポ : 音程が下がる。

鍵盤 + テンポ : 音程が上がる。

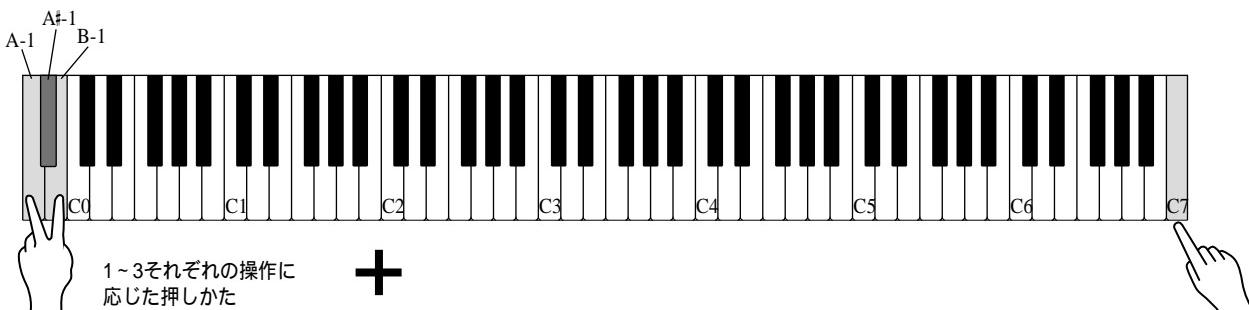
鍵盤 + テンポ + テンポ : 音程が標準のA3 = 440Hzになる。

- 設定した音程は、電源をオフにするまで記憶されます。

設定を記憶させる場合

電源をオフにした後も設定を記憶させておくことができます。

操作1～3の各 の鍵盤(A-1とB-1、またはA-1とA♯-1、またはA-1とA♯-1とB-1)を同時に押しながら、C7(右端)の鍵盤を押します。



補足 · 設定を記憶させた場合は、電源オフ後約1週間記憶され続けます。続けて記憶させる場合は、最低1週間おきに30秒以上電源を入れるようにしてください。

· ピッチコントロール量は全音色に共通の設定です。工場出荷時には、A3=440Hz(標準状態)

になっています。

· MIDIのローカルコントロールがオフ(53ページ参照)のときは、ピッチコントロールの設定はできません。

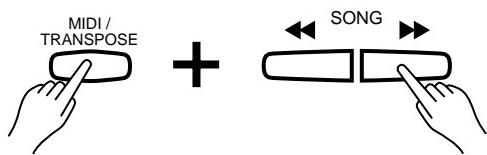
鍵盤ごとの調律機能

クラビノーバは、工場出荷時にはそれぞれの音色に合わせた調律カーブに設定されていますが、鍵盤ごとに音程を調節し、調律カーブを変更することができます。

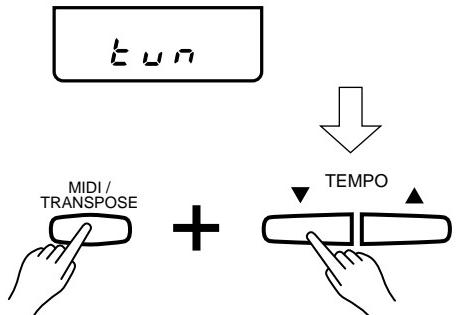
- ・約-50セント～約+50セントの範囲で約1.2セントきざみの設定ができます(100セント=半音)。設定中は、ディスプレイにステップ数が表示されます。



ある鍵盤の音程を下げる

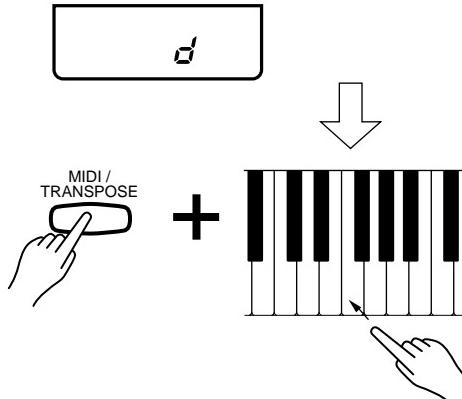


ディスプレイに“tun”が表示されるまで、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ソング FF またはソング f_f ボタンを押します。



MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、テンポボタンを押します。

ディスプレイに“d”が表示されて調律の機能がオンになります。

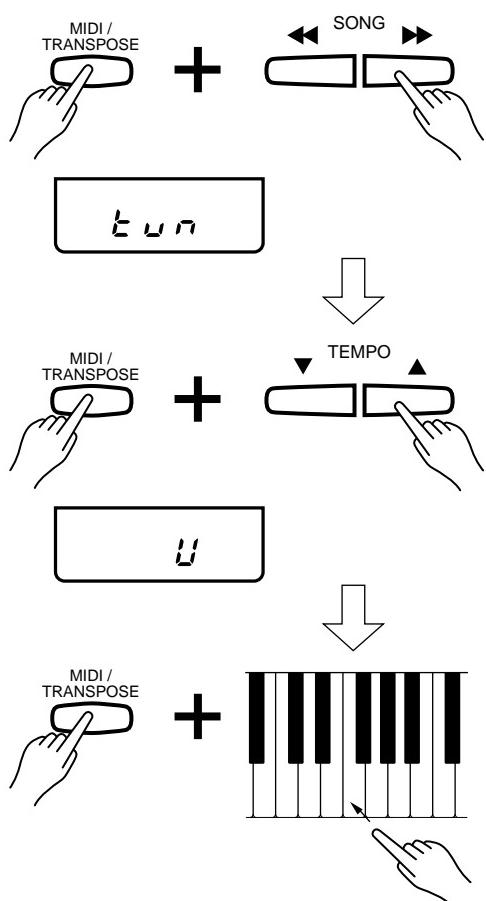


MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、音程を下げたい鍵盤を押します。

1回押すごとに、1ステップ(約1.2セント)ずつ音程が下がり、最高-44ステップ(-50セント)まで下がります。

操作中はディスプレイに、設定値がステップ数で表示されます。

ある鍵盤の音程を上げる



ディスプレイに“ tun ”が表示されるまで、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ソング YY またはソング ff ボタンを押します。

MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、テンポボタンを押します。

ディスプレイに“ U ”が表示されて調律の機能がオンになり、ある鍵盤の音程を上げることが可能になります。

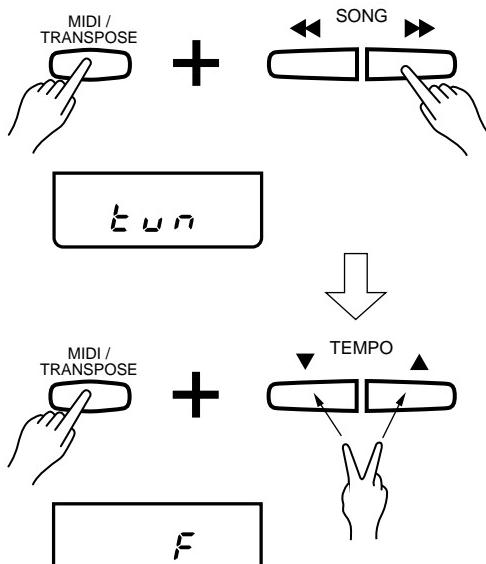
MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、音程を上げたい鍵盤を押します。

1回押すごとに、1ステップ(約1.2セント)ずつ音程が上がり、最高44ステップ(+50セント)まで上がります。

操作中はディスプレイに、設定値がステップ数で表示されます。

補足 · 設定した調律カーブは、電源オフ後約1週間記憶され続けます。続けて記憶させる場合は、最低1週間おきに30秒以上電源を入れるようにしてください。

調律機能のオン／オフ



設定した調律カーブを一時オフにして、工場出荷時のカーブに切り換えることができます。

ディスプレイに“ tun ”が表示されるまで、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ソング YY またはソング ff ボタンを押します。

MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、テンポとテンポボタンを同時に押します。

ディスプレイに“ F ”が表示されて調律の機能がオフになり、工場出荷時の音程になります。

・ 設定した調律カーブに戻すときは、調律機能をオンにします(前ページ の方法で“ d ”または“ U ”の表示にします)。

補足 · 電源オン時には、調律機能はオフに設定されています。

調律カーブの保存

設定した調律カーブを、そのまま録音用ディスクに記憶させることができます。演奏を録音するときと同じように、ソングナンバーを選んで1曲として記憶させます。(レコーダーで録音したソングデータのあるソングナンバーにも、記憶させることができます。この場合、ソングデータは消えません。)

どのソングに記憶させたのか忘れないように、インデックスなどに書きとめておきましょう。

1 ディスクを入れる

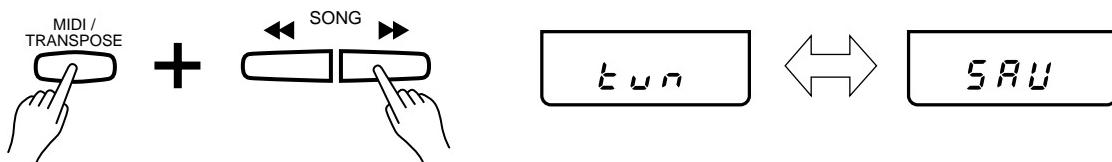
2 記憶させるソングナンバーを選ぶ

ソング<<またはソング>>ボタンで、ソングナンバーを選びます。

3 調律カーブの保存状態に入る

ディスプレイに“ tun ”と“ SAV ”が交互表示されるまで、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ソング<<またはソング>>ボタンを押します。

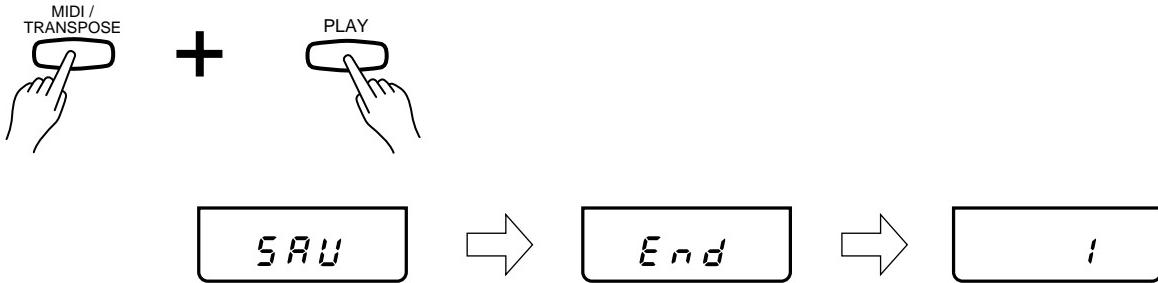
調律カーブの保存状態に入ります。



4 保存を実行する

MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、プレイボタンを押します。

保存がはじまります。ディスプレイに“ SAV ”が表示されている間は、ディスクにデータが書き込まれています。書き込みが終わると、ディスプレイに“ End ”が表示された後、ソングナンバー表示に戻ります。



補足 ディスクに記憶させた調律カーブのデータは、「ソングデータの削除」(37ページ参照)を実行しても削除されません(ソングのデータのみ削除されます)。また、「ソングコピー」(40ページ参照)を実行した場合には、同じソングナンバーにレコーダーで録音したソングのデータがあれば、ソングのデータといっしょにコピーされますが、調律カーブのデータだけの場合はコピーされません。

調律カーブの再現

録音用ディスクに記憶させた調律カーブを、クラビノーバ上に再現させることができます。

1 ディスクを入れる

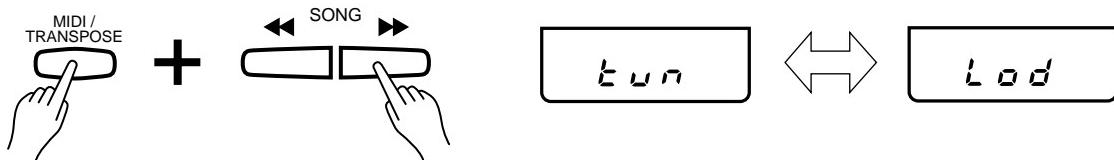
2 再現させる調律カーブを選ぶ

ソング<<またはソング>>ボタンで、ソングナンバーを選びます。

3 調律カーブの再現状態に入る

ディスプレイに“ tun ”と“ Lod ”が交互表示されるまで、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ソング<<またはソング>>ボタンを押します。

調律カーブの再現状態に入ります。



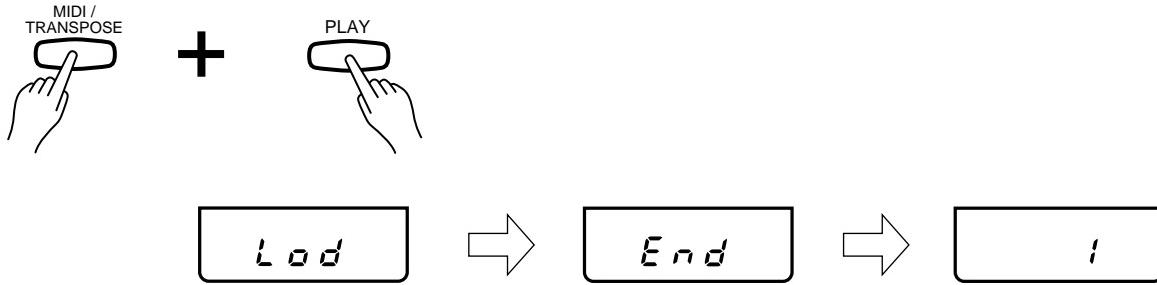
4 再現を実行する

MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、プレイボタンを押します。

読み込みがはじまります。ディスプレイに“ Lod ”が表示されている間は、ディスクからデータが読み込まれています。読み込みが終わると、ディスプレイに“ End ”が表示された後、ソングナンバー表示に戻ります。

このとき、鍵盤ごとの調律機能（47ページ参照）が自動的にオンになりますので、そのまま再現した調律カーブを使用することができます。

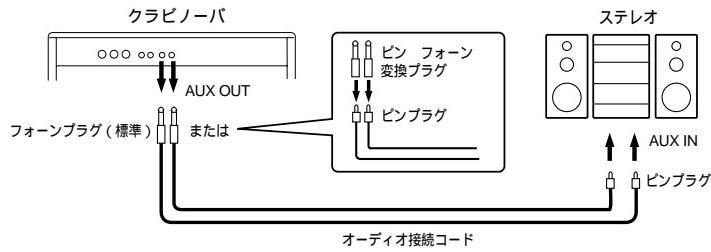
- ソングナンバーに調律カーブのデータがないと、ディスプレイに“ no ”が表示されます。手順2の操作からやりなおしてください。



他の機器と接続する

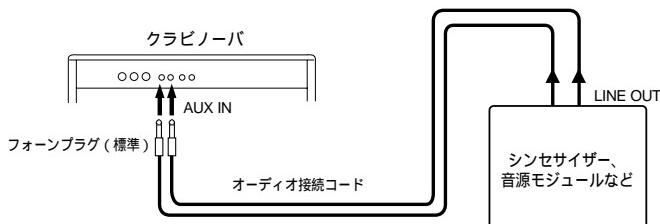
リアパネルの付属端子を使って、各機器と接続できます。なお、MIDI端子については次ページをご覧ください。

AUX出力端子を使う



オーディオ接続コードを使って図のように接続すると、ステレオなどからより大きな音を出したり、演奏を録音できます。ステレオに接続したときは、クラビノーバのボリューム(MASTER VOLUME)を半分くらいにして、ステレオのボリュームで音量調節してください。

AUX入力端子を使う



オーディオ接続コードを使って図のように接続すると、他の楽器や機器の音をクラビノーバのスピーカーから出すことができます。

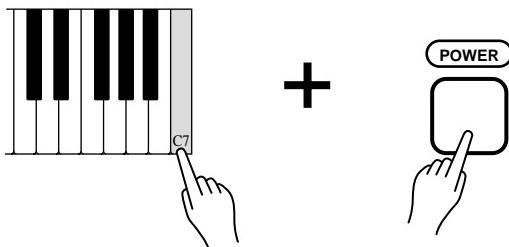
- 補足**
- ・AUX入力端子から入力した外部機器の音も、クラビノーバの音といっしょに本体スピーカーとAUX出力端子から出力されますが、クラビノーバの音量調節やリバーブなどは効きません。
 - ・AUX出力端子から出力した音を、AUX入力端子に戻さないでください。
 - ・オーディオ接続コードおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

すべての設定を工場出荷状態に戻す

クラビノーバ本体に記憶させたすべての設定を消して、工場出荷状態に戻すことができます。

すべての設定を工場出荷状態に戻す

C7(右端)の鍵盤を押しながら、電源(POWER)スイッチをオンにします。



- 補足**
- ・この操作を実行すると、クラビノーバ本体に記憶させたすべての設定が消え、工場出荷状態に戻ります。(ブリリアンス効果、リバーブ効果、エフェクト効果(CLP-158のみ)、デュアル機能、タッチセンシティビティ調節機能、ピッチコントロール機能、鍵盤ごとの調律データ)

MIDIとは

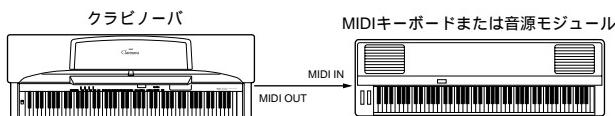
MIDI(ミディ)とは、「Musical Instrument Digital Interface」の略で、世界の主な楽器メーカー間での話し合いにより決められた世界統一の規格です。MIDIはデジタル信号なので、1本のMIDIケーブル上で演奏情報をはじめいろいろな情報を同時に扱うことができます。このMIDIを使うことによって、あるMIDI楽器から別のMIDI楽器を自由自在にコントロールすることができます。

MIDIを使ってできること

他のMIDIキーボードとつなぐ

図のようにクラビノーバのMIDI OUTと、他のMIDIキーボードまたは音源モジュールのMIDI INをつないで、クラビノーバを演奏すると、まったく違う音色によるユニゾンで鳴らすことができます。

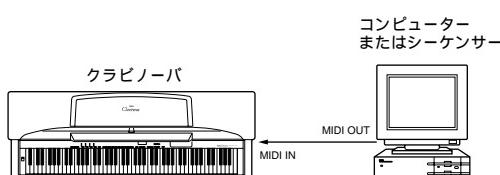
当然ですが、逆に他のMIDIキーボードのMIDI OUTとクラビノーバのMIDI INをつなぐことによって、他のMIDIキーボードからクラビノーバをコントロールすることもできます。



注意：他のMIDI機器と接続して鳴らす場合は、次ページの方法でMIDIチャンネルを合わせる必要があります。

コンピューターやシーケンサーの音源として使う
コンピューターやシーケンサーの自動演奏の音源として、クラビノーバを使うことができます。

54ページのマルチティンバー機能を使うことによって、内蔵されている複数の音色で同時に鳴らすことができます。



注意：コンピューターを使う場合は、シーケンスソフトとMIDIインターフェースが必要です。

MIDIシステムのセットアップ

MIDIを利用するには、専用のMIDIケーブルを使って正しくMIDI端子を接続する必要があります。

MIDI端子

通常、MIDI端子は図のように3種類あります。

● MIDI IN

MIDI信号を受ける端子です。

● MIDI OUT

MIDI信号を出力する端子です。

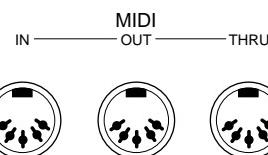
● MIDI THRU

MIDI INに入ってきたMIDI信号を、そのまま出力します。

MIDI機器をたくさん接続するときに便利ですが、あまりたくさんのMIDI機器のTHRU端子を通過させると、MIDI信号が遅れてしまうので注意が必要です。

MIDI機器の種類によっては、その機能によってMIDI端子が3つより少なかったり、同じ端子が複数付いている場合があります。

また下図ではクラビノーバCLP-156/158のMIDI端子を示していますが、他のMIDI機器では並びの順番が違うものもあるため、注意が必要です。



MIDIケーブル

電子楽器を扱っている楽器店で購入することができます。

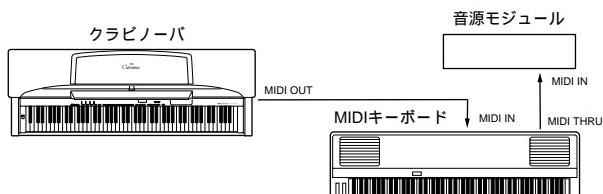
30cmから15mくらいまで、用途に応じていろいろな長さのものがあります。

MIDIの接続

MIDI端子の5本のピンの向きを確かめて、まっすぐに差し込みます。

MIDI信号を出力させる機器のMIDI OUTと、MIDI信号を受けさせる機器のMIDI INをつなぎます。

さらに増やす場合は、MIDI THRUを使います。



注意：MIDI機器は、それぞれ機種ごとに扱えるMIDIデータの内容が異なる場合があり、接続しているMIDI機器間で共通の機能だけコントロールすることができます。

注意：この共通の機能を調べるには、MIDIインプリメンテーション・チャート(58ページ参照)を使います。

MIDI機能の設定

MIDIを利用するときには、目的に応じて設定しておかなければならぬ項目がいくつかあります。

MIDIチャンネルを合わせる (MIDI送信/受信チャンネルの設定)

MIDIデータは一部を除いて、1~16のチャンネルを持っています。

MIDIデータを扱う場合、送信側と受信側でこのMIDIチャンネルを合わせておく必要があります。

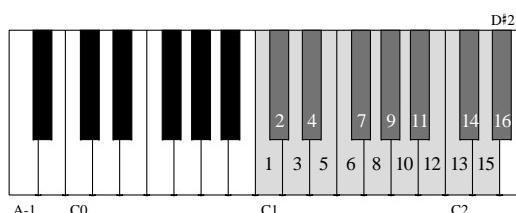
送信側からMIDIデータが送られてくると、受信側で設定されているチャンネルと一致するものだけを受け付け、異なるチャンネルのデータは無視するようになっています。

また、特別にオムニ・オン (OMNI ON)という状態があります。これはMIDIチャンネルに関係なく、受信したMIDIデータをすべて受け付ける状態です。

MIDI送信チャンネルの設定方法

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、C1~D#2の鍵盤を押すと、図のように送信チャンネルが設定されます。

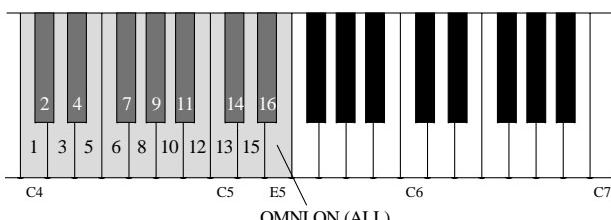
操作中はディスプレイに、送信チャンネル(S1~S16)が表示されます。



MIDI受信チャンネルの設定方法

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、C4~E5の鍵盤を押すと、図のように受信チャンネルが設定されます。

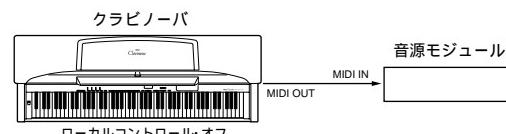
操作中はディスプレイに、受信チャンネル(r1~r16、ALL)が表示されます。



- 電源をオンにしたときは、送信チャンネル=1、受信チャンネル=オムニ・オンに設定されます。

クラビノーバの鍵盤と音源の機能を切り離して使う(ローカルコントロール・オフ)

クラビノーバをはじめシンセサイザーなどでも、鍵盤を弾いて、内蔵されている音源で音を出すのが普通です。ところが、ローカルコントロールをオフにすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもクラビノーバからは音が出なくなります。一方、演奏情報はMIDI OUT端子から出力されますので、クラビノーバ本体を鳴らさずにMIDIで他の音源をコントロールしたいときに、オフにしてください。



設定方法

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ピアノ1 (PIANO 1)ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

操作中は、ローカルコントロール=オフでピアノ1ボタンのランプが点灯、ローカルコントロール=オンで消灯します。

- 電源をオンにしたときは、ローカルコントロール=オンに設定されます。

MIDIによる音色ナンバーの変更 (プログラムチェンジ)

MIDIを使って送信側の機器から受信側の機器の音色ナンバーを切り換えることができます。これをプログラムチェンジといいます。

いろいろなMIDIシステムを組んでいくと、このプログラムチェンジのデータの送受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合とがあります。

プログラムチェンジをオフにすると、プログラムチェンジの情報を送受信しなくなります。

設定方法

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ピアノ2 (PIANO 2)ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

操作中は、プログラムチェンジ=オフでピアノ2ボタンのランプが点灯、プログラムチェンジ=オンで消灯します。

- 電源をオンにしたときは、プログラムチェンジ=オンに設定されます。

M
I
D
I

コントロールチェンジについて

MIDIではペダルやボリュームなど、いろいろなデータの送受信も行えます。これらはコントロールチェンジとしてまとめて扱われます。

コントロールチェンジをオフにすると、コントロールチェンジの情報を送受信しなくなります。

設定方法

CLP-156 :

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、クラビノーバトーン(CLAVINOVA TONE)ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

操作中は、コントロールチェンジ=オフでクラビノーバトーンボタンのランプが点灯、コントロールチェンジ=オンで消灯します。

CLP-158 :

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ピアノ3(PIANO 3)ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

操作中は、コントロールチェンジ=オフでピアノ3ボタンのランプが点灯、コントロールチェンジ=オンで消灯します。

- ・ クラビノーバがコントロールチェンジとして扱える情報は、56ページに詳しくまとめてあります。
- ・ 電源をオンにしたときは、コントロールチェンジ=オンに設定されます。

クラビノーバをシーケンサーのマルチ音源として使う(マルチティンバー機能)

クラビノーバに内蔵されている音色を、シーケンサーやコンピューターのマルチ音源として使うことができます。

シーケンサーからパートごとにプログラムチェンジで音色を指定して鳴らすことによって、オーケストレーションを楽しむことができます。

マルチティンバー機能をオンにすると、マルチ音源として使うことができるようになります。

設定方法

CLP-156 :

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、エレクトリックピアノ(E. PIANO)ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

操作中は、マルチティンバー機能=オンでエレクトリックピアノボタンのランプが点灯、マルチティンバー機能=オフで消灯します。

CLP-158 :

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、クラビノーバトーン(CLAVINOVA TONE)ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

操作中は、マルチティンバー機能=オンでクラビノーバトーンボタンのランプが点灯、マルチティンバー機能=オフで消灯します。

- ・ 電源をオンにしたときは、マルチティンバー機能=オフに設定されます。

低音部を外部音源で鳴らす(MIDIスプリット&レフトローカル・オフ)

鍵盤を好きな位置で低音部と高音部に分け、低音部の音をクラビノーバでは鳴らないよう(MIDIスプリット&レフトローカル・オフ)になる機能です。音源モジュールなどのMIDI機器を接続すると、低音部は外部音源で、高音部はクラビノーバの音源で鳴らすことができます。

設定方法

CLP-156 :

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ハープシコード(HARPSICHORD)ボタンを押すごとに、MIDIスプリット&レフトローカル・オフと通常の状態が切り換わります。

操作中は、MIDIスプリット&レフトローカル・オフでハープシコードボタンのランプが点滅、通常の状態で消灯します。

MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、境にしたい鍵盤を押します。

操作中は、MIDIスプリット&レフトローカル・オフでハープシコードボタンのランプが点灯、通常の状態で消灯します。

CLP-158 :

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、エレクトリックピアノ1(E. PIANO 1)ボタンを押すごとに、MIDIスプリット&レフトローカル・オフと通常の状態が切り換わります。

操作中は、MIDIスプリット&レフトローカル・オフでエレクトリックピアノ1ボタンのランプが点滅、通常の状態で消灯します。

MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、境にしたい鍵盤を押します。

操作中は、MIDIスプリット&レフトローカル・オフでエレクトリックピアノ1ボタンのランプが点灯、通常の状態で消灯します。

- ・ MIDIスプリット&レフトローカル・オフのときは、低音部はチャンネル2で送信、高音部は送信チャンネルで送信されます。
- ・ 電源をオンにしたときは、通常の状態に設定されます。
- ・ 境にした鍵盤は、常に低音部に含まれます。電源オンにしたときは、境の鍵盤はF#2に設定されます。

高音部を外部音源で鳴らす (MIDIスプリット&ライトローカル・オフ)

前項のMIDIスプリット&レフトローカル・オフは低音部の音がクラビノーバでは鳴らないようにする機能ですが、この機能は逆に、高音部の音がクラビノーバでは鳴らないよう(MIDIスプリット&ライトローカル・オフ)になる機能です。

設定方法

CLP-156 :

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、バイブ(VIBES)ボタンを押すごとに、MIDIスプリット&ライトローカル・オフと通常の状態が切り換わります。

操作中は、MIDIスプリット&ライトローカル・オフでバイブボタンのランプが点滅、通常の状態で消灯します。

MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、境にしたい鍵盤を押します。

操作中は、MIDIスプリット&ライトローカル・オフでバイブボタンのランプが点灯、通常の状態で消灯します。

CLP-158 :

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、エレクトリックピアノ2(E.PIANO 2)ボタンを押すごとに、MIDIスプリット&ライトローカル・オフと通常の状態が切り換わります。

MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、境にしたい鍵盤を押します。

操作中は、MIDIスプリット&ライトローカル・オフでエレクトリックピアノ2ボタンのランプが点灯、通常の状態で消灯します。

- MIDIスプリット&ライトローカル・オフのときは、低音部はチャンネル2で送信、高音部は送信チャンネルで送信されます。
- 電源をオンにしたときは、通常の状態/境の鍵盤はF#2に設定されます。
- 境にした鍵盤は、常に低音部に含まれます。電源オンにしたときは、境の鍵盤はF#2に設定されます。

パネルの設定を外部機器に保存する (パネルデータの送信)

CLP-156/158のパネルで設定されている状態を、MIDI OUTからシーケンサーまたはMIDIデータファイルに送信することができます。演奏データの最初に、このパネル状態を送信して記録しておくと、シーケンサー等でそのデータを送信し、CLP-156/158で再生する場合に便利です。

送信方法

CLP-156 :

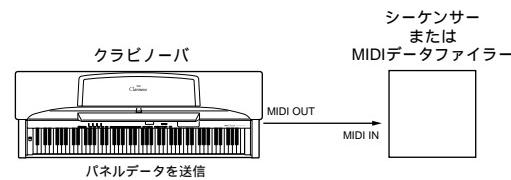
MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ストリングス(STRINGS)ボタンを押します。

CLP-158 :

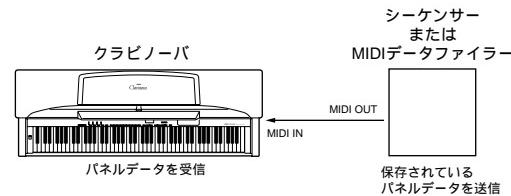
MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ハープシコード(HARPSICHORD)ボタンを押します。

MIDI OUTからパネルデータが送信されます。

- 送信されるパネルデータの内容は、次ページにまとめてあります。



- パネルデータを受信させる場合は、データが保存されている機器のMIDI OUTと、クラビノーバのMIDI INを接続します。保存されている側から送信が行われると、自動的にクラビノーバが受信します。



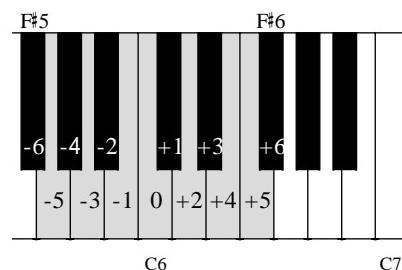
トランスポーズ(移調)して外部音源を鳴らす(MIDIトランスポーズ)

クラビノーバで外部の音源を鳴らす場合に、送信するMIDIデータをトランスポーズすることによって、外部音源の演奏だけ移調させることができます。

設定方法

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、F#5～F#6の鍵盤を押すと、図のように移調量が設定されます。

操作中は、ディスプレイに設定値が表示されます。



- 電源をオンにしたときは、移調量は“t 0”(標準の音程)に設定されます。

M
I
D
I

MIDIデータフォーマット

1. ノートオン/オフ

[9nH] [kk] [vv]

9nH = ノートオン/オフ情報(n = チャンネルNo.)

kk = ノートOn.

(送信: 15 ~ 114 = D♯-1 ~ F♯7)

(受信: 21 ~ 108 = A-1 ~ C7)

vv = ベロシティ

(ノート・オン = 01H ~ 7FH、ノート・オフ = 0)

[8nH] [kk] [vv]

8nH = ノート・オフ情報(n = チャンネルNo.)

kk = ノートNo.

(送信: 15 ~ 114 = D♯-1 ~ F♯7)

(受信: 21 ~ 108 = A-1 ~ C7)

vv = ベロシティ(ノート・オフ = 00H ~ 7FH)

ノート・オフの8nHは受信のみ、送信は9nH(vv = 00H)で行います。

2. コントロールチェンジ

[BnH] [cc] [vv]

BnH = コントロール情報(n = チャンネルNo.)

cc = コントロールNo.

vv = コントロール値

cc コントロール 値(vv)

07H ポリューム(受信のみ)

00H : -
6FH : -3dB
7FH : ± 0dB

0AH パンポット(受信のみ)

00H ~ 17H : 左6
18H ~ 1FH : 左5
20H ~ 27H : 左4
28H ~ 2FH : 左3
30H ~ 37H : 左2
38H ~ 3FH : 左1
40H ~ 47H : 中央
48H ~ 4FH : スケーリングパン
50H ~ 57H : 右1
58H ~ 5FH : 右2
60H ~ 67H : 右3
68H ~ 6FH : 右4
70H ~ 77H : 右5
78H ~ 7FH : 右6

0BH エクスプレッション(受信のみ)

00H : -
6FH : -3dB
7FH : ± 0dB

40H ダンパーべダル

00H ~ 7FH : 8段階

42H ソステナートペダル

00H ~ 3FH : オフ
40H ~ 7FH : オン

43H ソフトペダル

CLP-156 00H ~ 3FH : オフ
40H ~ 7FH : オン

CLP-158 00H ~ 7FH : 8段階

5BH リバーブデプス

00H ~ 7FH : 16段階

78H オールサウンド・オフ(受信のみ)

00H

79H リセットオールコントローラー(受信のみ)

00H

7AH ローカルコントロール(受信のみ)

00H : オフ
7FH : オン

7BH オールノート・オフ(受信のみ)

00H

7CH オムニ・オフ/オールノート・オフ(受信のみ)

00H

7DH オムニ・オン/オールノート・オフ(受信のみ)

00H

3. プログラムチェンジ

[CnH] [pp]

CnH = プログラム情報(n = チャンネルNo.)

pp = プログラムNo.

CLP-156 :

pp 音色名
00H ピアノ1
01H ピアノ2
02H クラビノーバトーン
03H エレクトリックピアノ
04H ハープシコード
05H バイブ
06H ストリングス
07H オルガン
08H ストリングススローアタック(受信のみ)

CLP-158 :

pp 音色名
00H ピアノ1
01H ピアノ2
02H ピアノ3
03H クラビノーバトーン
04H エレクトリックピアノ1
05H エレクトリックピアノ2
06H ハープシコード
07H バイブ
08H ストリングス
09H オルガン
0AH ストリングススローアタック(受信のみ)

4. システムリアルタイムメッセージ

[rr]

rr コントロール
F8H タイミングクロック *1
FAH スタート
FCH ストップ
FEH アクティブセンシング *2

*1 送信時は96分ごとに1回。外部クロック時の受信は、テンボの96分のタイミングとして受信します。

*2 送信時は約200msecごとに1回。受信時は、400msec以上受信しないと発音が停止します。

オーバーラン・フラミングエラーが起こったときは、すべてのチャンネルのダンパー、ソステナート、ソフトペダルをオフにし、オールノート・オフにします。

5. システムエクスクルーシブメッセージ

(日)ヤマハMIDIフォーマット

[F0H] [43H] [XnH] [ff].....[F7H]

43H : ヤマハID
Xn : サブステータス + チャンネルNo.
ff : フォーマットNo.

X ff 機能

0 7CH パネルデータ受信
2 7CH パネルデータ・バルクダンプリクエスト
2 7DH モデルIDコード・バルクダンプリクエスト

nはオムニ・オン/オフにかかわらず、受信チャンネルに指定されたチャンネルが有効です。

パネルデータフォーマット

F0H, 43H, 0nH, 7CH, 00H, 1BH (n = チャンネルNo.)

53H, 4BH, 20H, 20H (SK)

43H, 4CH, 50H, 27H, 39H, 34H (CLP '94)

3xH, 3yH (x,y = ページョンNo.)

[/パネルデータ]

[チェックサム(1バイト)] = 0 - (53H + 4BH + 20H + + データエンド)

F7H

パネルデータ項目

音色番号
デュアル音色
デュアルオン/オフ
デュアルバランス
ブリリアンス
エフェクト(CLP-156の場合は0)
デュアル音色エフェクト(CLP-156の場合は0)
リバーブ
リバーブの深さ
タッチセンシティビティ
0
スプリットポイント
鍵盤ごとの調律機能オン/オフ
テンポ(絶対値 下位バイト)
テンポ(絶対値 上位バイト)

鍵盤ごとの調律データフォーマット

F0H、43H、73H
38H (機種ID)
06H (パルクID)
00H (パルクNo.)
00H、00H、0BH、00H (データ長 = wxyzH 88*2バイト)
[パルクデータ] (low : A-1, high : A-1 low : C7, high : C7)
[チェックサム(1バイト)] = 0 - sum(パルクデータ)
F7H

モデルIDコード送信フォーマット

F0H、43H、0nH、7DH、00H、10H (n = チャンネルNo.)
53H、4BH、20H、20H (SK)
43H、4CH、50H、27H、39H、34H (CLP '94)
3xH、3yH、20H、20H、20H、20H (x,y = バージョンNo.)
[チェックサム(1バイト)] = 0 - (53H + 4BH + 20H + + 20H)
F7H

(月)クラビノーバMIDIフォーマット

[F0H] [43H] [73H] [xx] [yy] [F7H]

43H : ヤマハID
73H : クラビノーバID
xx : 機種ID (38H *1)
yy : サブステータス

yy : 機能
02H : 内部クロック
03H : 外部クロック
13H : マルチティンバー機能オフ *2
14H : クラビノーバ共通音色マルチティンバー機能オン *2
15H : マルチティンバー機能オン *2
61H : MIDIスタートキャンセル・オン *3
62H : MIDIスタートキャンセル・オフ *3
7nH : オールノート・オフ、受信チャンネル=n+1、オムニ・オフ

*1 yy = 2, 3, 13, 14, 15, 7nのときは、機種ID(38H)の代わりに、クラビノーバ共通ID(01H)を受信した場合も受け付けます。

*2 [13H]、[14H]、[15H]を受信すると、すべてのコントロールチェンジをリセットします。また[14H]、[15H]を受信したときは、いつも同じ初期設定になるように音色などもリセットします。

*3 [61H]を受信すると、スタート(FAH)を受信してもスタートしません。また、ストップ(FCH)やタイミングクロック(F8H)には影響を与えません。
[62H]はこの機能のキャンセルに使用します。

(火)特殊コントロール

[F0H] [43H] [73H] [xx] [11H] [0nH] [cc] [vv] [F7H]

43H : ヤマハID
73H : クラビノーバID
xx : 機種ID (38H *1)
11H : クラビノーバ特殊コントロール
0nH : コントロールMIDIチェンジ + チャンネルNo.
cc : コントロールNo.
vv : 値

| | | |
|-----|-------------------------|--|
| cc | コントロール | 値(vv) |
| 08H | デュアルバランス | 00H : 左側音色最大 7FH : 右側音色最大 |
| 1BH | メトロノーム・オン/オフ(受信のみ) | 00H : オフ 01H : オン |
| 26H | タッチセンシティビティ | 00H : ミディアム 01H : ソフト 02H : ハード 03H : オフ |
| 27H | デュアルボイスエフェクト(CLP-158のみ) | 00H : オフ 01H : デチューン 02H : コーラス 03H : トレモロ |
| 58H | ブリリアンス *1 | 00H : ノーマル 01H : メロー 02H : ブライト |
| 59H | リバーブ *1 | 00H : オフ 01H : ルーム 02H : ホール1 03H : ホール2 04H : コズミック |
| 5AH | デュアル・オン/オフ | 00H : デュアル・オフ 01H : デュアル・オン(ノーマル) 02H : デュアル・オン (左側音色1オクターブ上) 03H : デュアル・オン (右側音色1オクターブ上) |
| 5BH | エフェクト(CLP-158のみ) | 00H : オフ 01H : デチューン 02H : コーラス 03H : トレモロ |
| 5CH | デュアルボイス | vv : デュアルボイス音色 |
| 5EH | 鍵盤ごとの調律 *2 | vv : キーNo. |
| 5FH | 鍵盤ごとの調律 | vv : ピッチ vv = 40H : 0 vv = 41H : +1 vv = 3FH : -1 |

*1 [58H]、[59H]の場合は、機種ID(38H)の代わりにクラビノーバ共通ID(01H)を受信した場合も受け付けます。

*2 キーNo.を00Hで受信した場合は、すべての鍵盤の調律が標準の0になります。

キーNo.を01Hで受信した場合は、鍵盤ごとの調律がオフになります。

キーNo.の02Hを受信した場合は、鍵盤ごとの調律がオンになります。

(木)アブソリュート・テンポ

[F0H] [43H] [73H] [xx] [11H] [1nH] [cc] [dd] [F7H]

43H : ヤマハID
73H : クラビノーバID
xx : 機種ID (38H)
11H : クラビノーバ特殊コントロール
1nH : コントロールMIDIチェンジ
(送信時 : n = コントロール・チャンネルNo.)
(受信時 : どのチャンネルNo.でもよい)
cc : アブソリュート・テンポ/L
dd : アブソリュート・テンポ/H
(テンポ = ddH*128+cc)

(木)ピート、テンボランプ・オン/オフ

[F0H] [43H] [73H] [xx] [11H] [4FH] [cc] [dd] [F7H]

43H : ヤマハID
73H : クラビノーバID
xx : 機種ID (38H または共通 = 01H)
11H : クラビノーバ特殊コントロール
4FH : コントロールMIDIチェンジ
cc=00H : ピートランプ
dd=00H オン
dd=7FH オフ
cc=01H : テンボランプ
dd=00H オン
dd=7FH オフ

M
I
D
I

YAMAHA [Clavinova]
Model CLP-156/158 MIDI Implementation Chart

Date : 06/23, 1994
Version : 1.0

| Function | | Transmitted | Recognized | Remarks |
|---|---|----------------------------|-----------------------------|--|
| Basic Channel | Default Changed | 1 1-16 | 1 1-16 | |
| Mode | Default Messages | 3 x ***** | 1 OMNI on, OMNI off x | |
| Note Number : Number : True voice | | 15-114 ***** | 0-127 21-108 | |
| Velocity | Note on Note off | 9nH, v=1-127 x 9nH, v=0 | v=1-127 x | |
| After Touch | Key's Ch's | x x | x x | |
| Pitch Bender | | x | x | |
| Control Change | 07 10 11 64 66 67 91 120 121 | x x x x x | | Volume Pan pot Expression Damper Sostenuto Soft Pedal Reverb Depth All sounds off *1 Reset All Controllers |
| Program Change : True # | | 0-8/0-10 ***** | 0-8/0-10 0-8/0-10 | |
| System Exclusive | | | | |
| System Common | : Song Pos : Song Sel : Tune | x x x | x x x | |
| System Real Time | : Clock : Commands | | | |
| Aux Mes- | : Local ON/OFF : All Notes OFF : Active Sense Messages : Reset | x x x | (123-125) *1 x | |
| Notes : *1=receive (120,121,123) if omni off or multi-timbre on | | | | |

Mode 1 : OMNI ON, POLY Mode 2 : OMNI ON, MONO
Mode 3 : OMNI OFF, POLY Mode 4 : OMNI OFF, MONO

: Yes
x : No

クラビノーバの組み立てかた【CLP-156】

- 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行ってください。
- ネジは指定のサイズ以外のものは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因となる場合があります。
- ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないよう増し締めを行って確実に固定してください。
- 解体するときは、組み立てと逆の手順で行ってください。

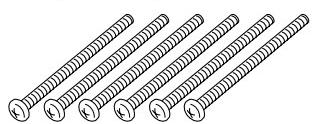
1 + (プラス)のドライバーを用意します。



2 箱を開けて部品を取り出します。そして部品がすべてそろっているか確かめてください。

ネジセット VS39820

長いネジ(金色) × 6
(5 × 40mm)



短いネジ(頭大) × 4
(6 × 18mm)



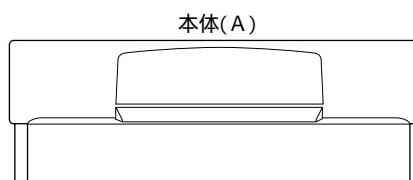
細いネジ(黒色) × 2
(4 × 16mm)



短いネジ(頭小) × 6
(6 × 14mm)

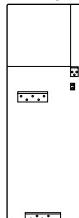


コードクランプ × 2

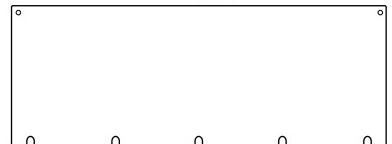


本体(A)

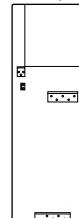
左板(C)



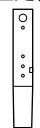
裏板(B)



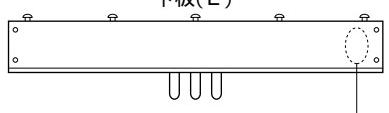
右板(D)



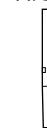
左足(F)



下板(E)

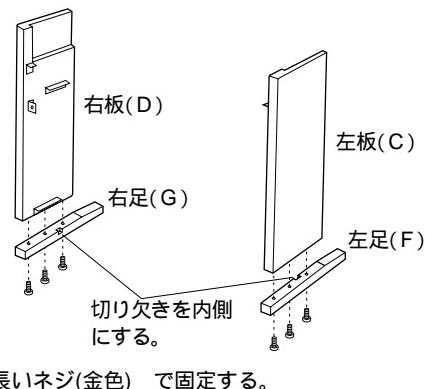


右足(G)

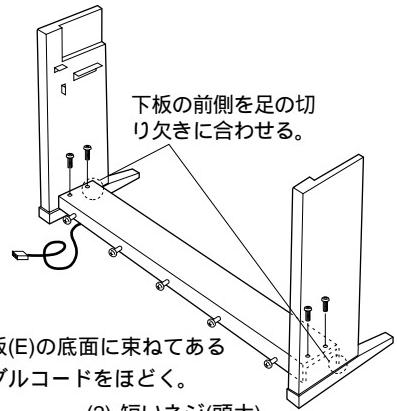


裏側にペダルコードが束ねてあります。

3 右板(D)と右足(G)、左板(C)と左足(F)を固定します。



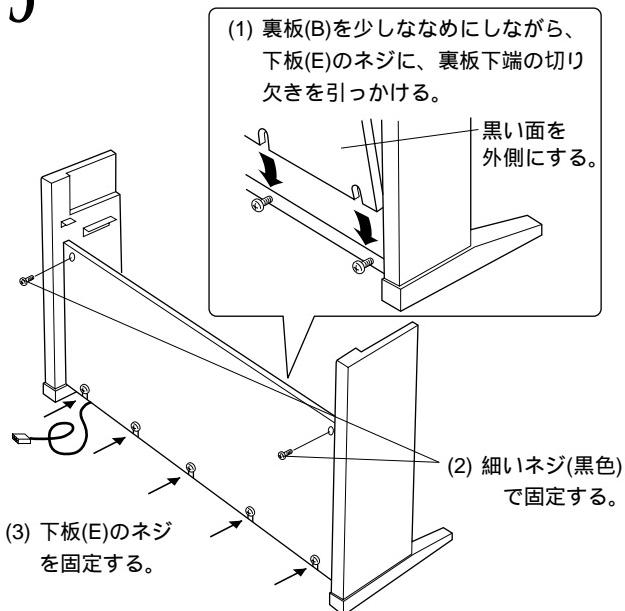
4 下板(E)を固定します。



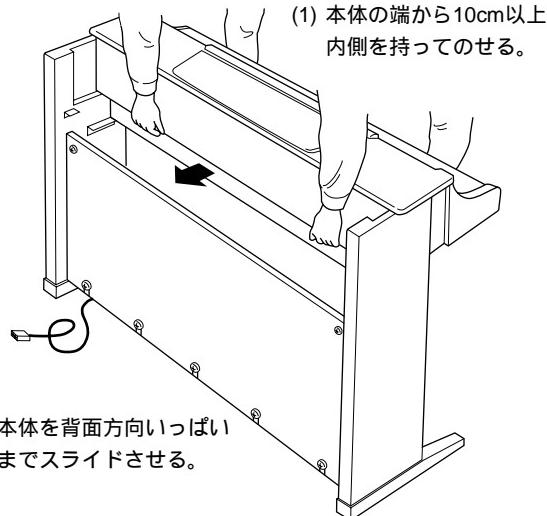
(1) 下板(E)の底面に束ねてあるペダルコードをほどく。

(2) 短いネジ(頭大)で固定する。

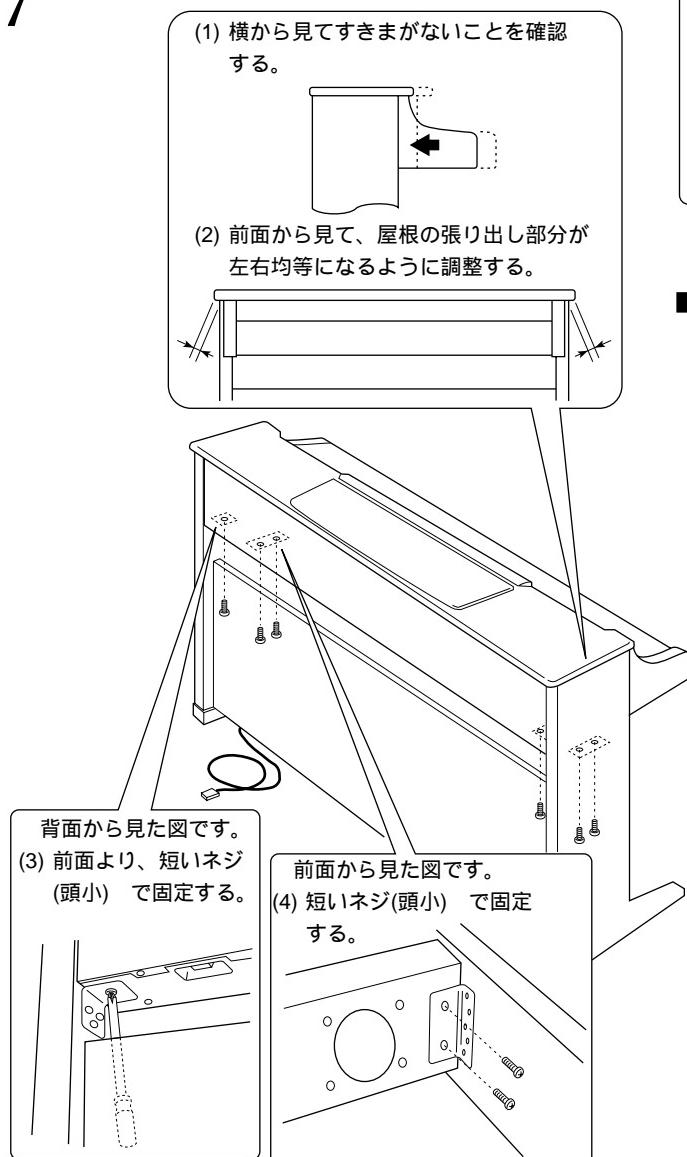
5 裏板(B)を固定します。



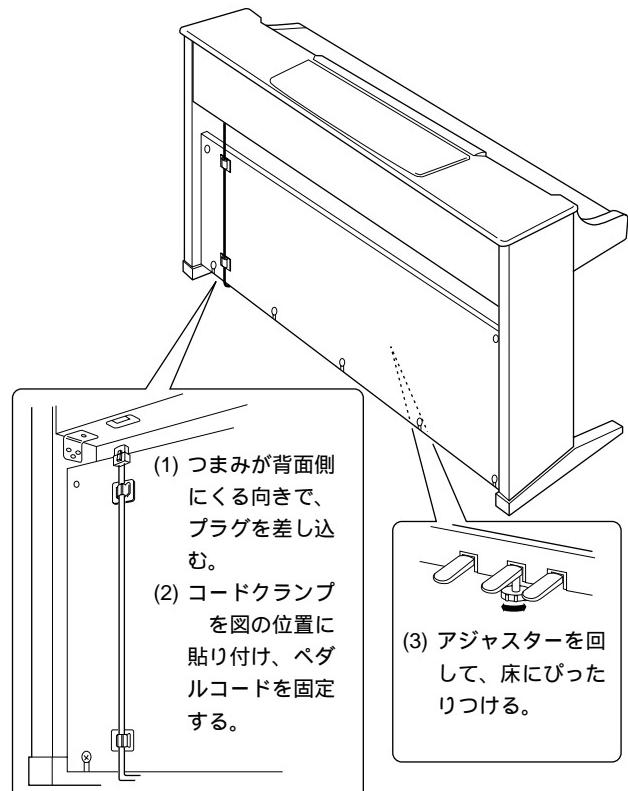
6 本体(A)をのせます。
指をはさまないように十分注意してください。



7 本体(A)を固定します。



8 ペダルコードを接続し、アジャスターを回します。



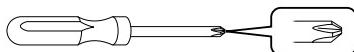
■ 組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

- 部品が余っていませんか？
→組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドア等がクラビノーバにあたりませんか？
→クラビノーバを移動してください。
- クラビノーバをゆすると、ガタガタしませんか？
→ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、下板がガタガタしませんか？
→アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横振れする、グラつく等の症状がでたら、組み立て図にしたがって各部のネジを締め直してください。

クラビノーバの組み立てかた【CLP-158】

- 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行ってください。
- ネジは指定のサイズ以外のものは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因となる場合があります。
- ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないよう増し締めを行って確実に固定してください。
- 解体するときは、組み立てと逆の手順で行ってください。

1 + (プラス)のドライバーを用意します。



2 箱を開けて部品を取り出します。そして部品がすべてそろっているか確かめてください。

ネジセット VS38320

長いネジ(金色) × 6
(5 × 40mm)



短いネジ(頭大) × 4
(6 × 18mm)



短いネジ(頭小) × 6
(6 × 18mm)



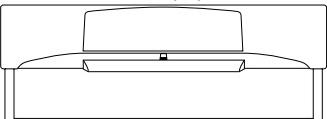
細いネジ(黒色) × 5
(4 × 25mm)



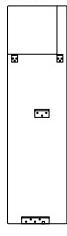
コードクランプ × 2



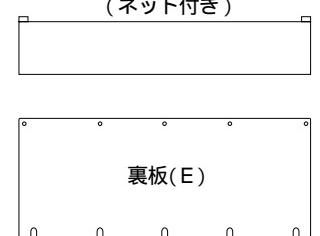
本体(A)



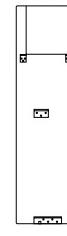
左板(B)



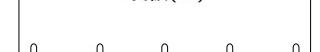
スピーカーボックス(D) (ネット付き)



右板(C)

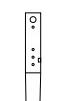


裏板(E)



下板(H)

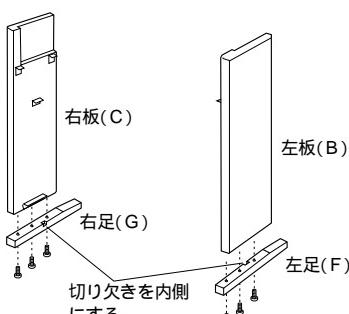
左足(F)



裏側にペダルコードが
束ねてあります。



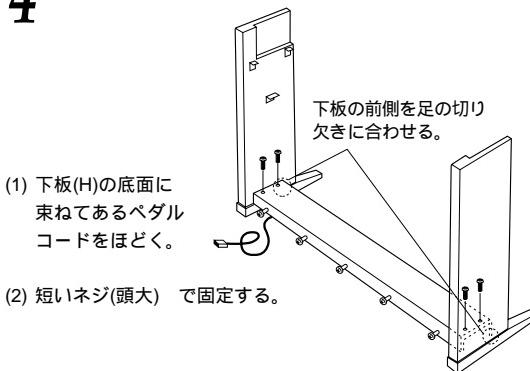
3 右板(C)と右足(G)、左板(B)と左足(F)を固定します。



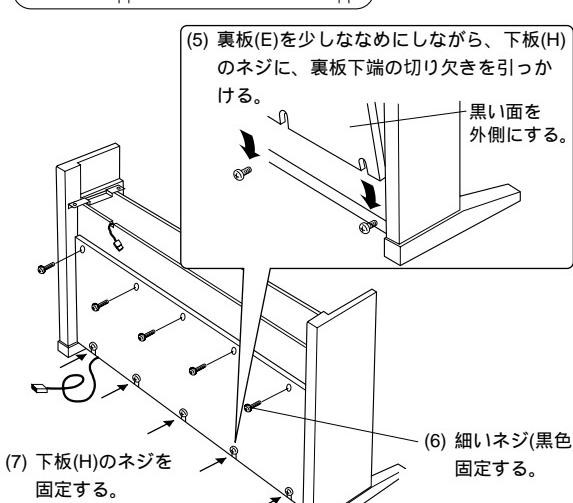
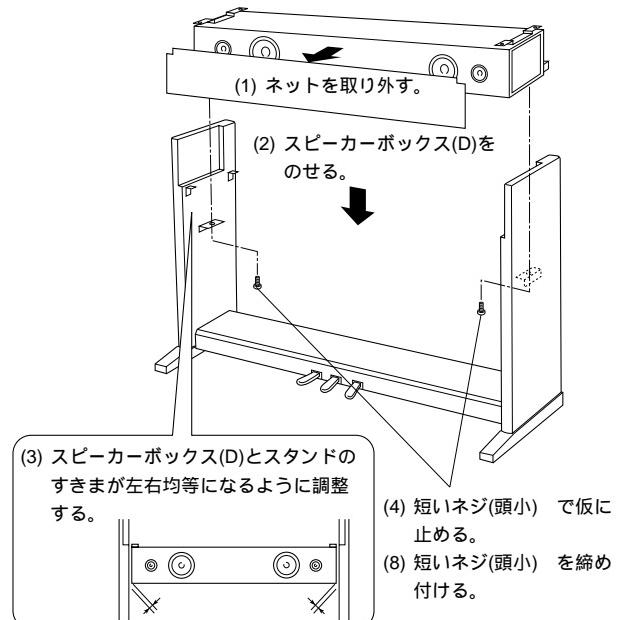
長いネジ(金色) で固定する。

切り欠きを内側にする。

4 下板(H)を固定します。

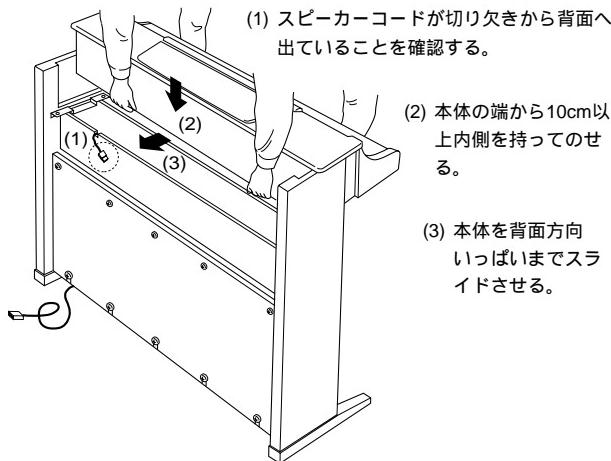


5 スピーカーボックス(D)と裏板(E)を固定します。
指をはさまないように十分注意してください。

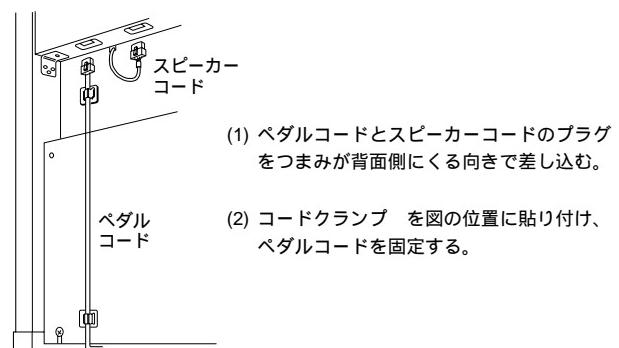


上図の手順(8)を忘れないように注意してください。

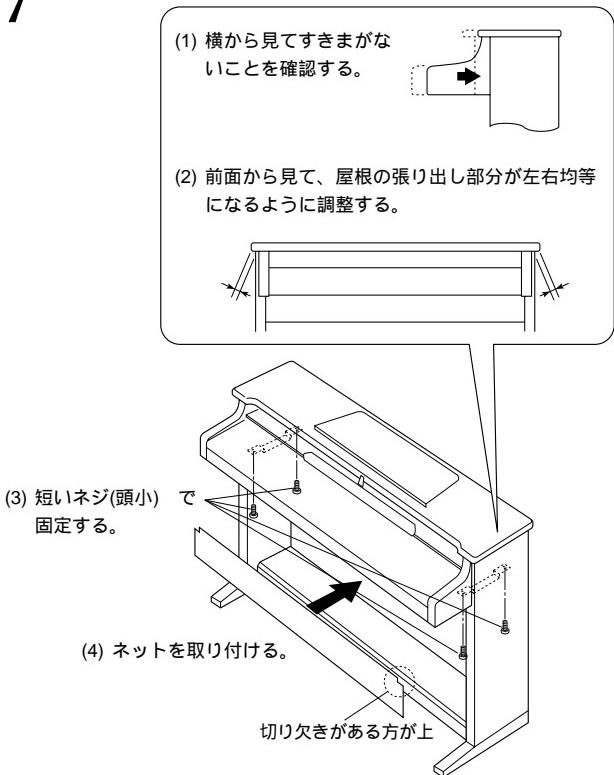
6 本体(A)をのせます。
指をはさまないように十分注意してください。



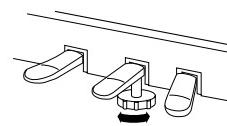
8 コードを接続します。
背面から見た図です。



7 本体(A)を固定します。



9 アジャスターを回します。

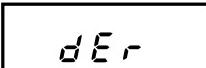


アジャスターを回して、床にぴったりつける。

■ 組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

- 部品が余っていませんか？
→組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドア等がクラビノーバにあたりませんか？
→クラビノーバを移動してください。
- クラビノーバをゆすると、ガタガタしませんか？
→ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、下板がガタガタしませんか？
→アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、スピーカーコードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横振れする、グラつく等の症状がでたら、組み立て図にしたがって各部のネジを締め直してください。

エラーメッセージ

| エラーメッセージ | 原因 | 処置 |
|---|--|--|
|  For (Format) | フォーマットしていないディスクを差し込んだ。 | フォーマットをしてください。 (32ページ) |
|  Pro (protected) | ディスクのライトプロテクトタブが、書き込みができる位置になっている。 プロテクトされているディスクに、データを記録しようとした。 | ディスクのライトプロテクトタブを、書き込みができる位置にしてください。 (26ページ) ピアノプレーヤソフト紹介ディスクやピアノプレーヤソフトなどは、フォーマットやデータの書き込みができるようにプロテクトされています。 |
|  dE (disk Error) | ディスクがこわれている。 ディスク作動時に大きな振動があった。 | ディスクを交換してください。 振動を与えないように注意しながら、もう一度操作を行ってください。 |
|  ノ (no disk) (no data) | 調律カーブのデータ保存時に、書き込みを実行する前に、ディスクを抜いた。 調律カーブのデータ再現時に、読み込みを実行する前に、ディスクを抜いた。 調律カーブのデータ再現時に、指定したソングに調律カーブのデータがなかった。 録音できないソングナンバーに録音しようとした。 | ディスクを入れて、操作をやりなおしてください。 (49ページ) ディスクを入れて、操作をやりなおしてください。 (50ページ) データのあるソングを選びなおしてください。 SMFデータに変換したソングや、CLP-156/158以外で録音したデータのあるソングには、録音できません。ソングを選びなおしてください。 |

オプション(別売品)のご紹介

ヘッドフォン・HPE-160

¥5,500



ピアノプレーヤソフト

ピアノソロ鑑賞用としてお楽しみいただけます。

(アーティストシリーズ各巻 ¥5,500より)

(リスニングシリーズ他、各巻 ¥4,000より)

ピアノ・ア・ラ・モード

クラビノーバ、ピアノプレーヤ共用のアンサンブルソフトです。

(各巻税込価格 ¥1,854 ~ 1,869)

表示の価格には、消費税は含まれていません。

資
料

仕様

- 鍵盤 88鍵 (A-1 ~ C7)、イニシャルタッチ付き
- 音源 AWM音源
- 最大同時発音数
 - CLP-156 最大32音
 - CLP-158 32音
- 音色
 - CLP-156 ピアノ1、ピアノ2、クラビノーバトーン、エレクトリックピアノ、ハープシコード、バイブ、ストリングス、オルガン
 - CLP-158 ピアノ1、ピアノ2、ピアノ3、クラビノーバトーン、エレクトリックピアノ1、エレクトリックピアノ2、ハープシコード、バイブ、ストリングス、オルガン
- 効果・機能 ブリリアンス、リバーブ、エフェクト(CLP-158のみ)、デュアル、タッチセンシティビティ、トランスポーズ、ピッチコントロール、鍵盤ごとの調律、メトロノーム、デモ演奏、ディスプレイ
- レコーダー 3.5インチ・ディスクドライブ・コントロール、ソングセレクト、2トラック録音/再生、巻き戻し、早送り、パート・オフ、全曲リピート、ランダムリピート、ディスクフォーマット、ソングコピー、ソングデータの削除、ESEQ SMF変換、SMF再生音色の選択
- その他コントロール 電源スイッチ、ボリューム、ダンパーペダル、ソステナートペダル、ソフトペダル
- 付属端子 ヘッドフォン端子(x2)、
 - AUX出力端子(L/L+R、R)：出力インピーダンス600Ω、
 - AUX入力端子(L、R)：入力インピーダンス10kΩ/入力感度-10dBm、
 - MIDI端子(IN、OUT、THRU)
- メインアンプ CLP-156 30W×2
CLP-158 50W×2
- スピーカー CLP-156 13cm×2、5cm×2
CLP-158 18cm×2、5cm×2、楕円型(5×9cm)×2
- 定格電源 AC100V、50/60Hz
- 消費電力
 - CLP-156 55W
 - CLP-158 75W
- 外装
 - CLP-156 仕上げ：ダークローズウッド調(リアル木目)仕上げ
間口：144cm 奥行き：51.3cm 高さ：90cm(107.1cm*)
重量：68.5kg
 - CLP-158 仕上げ：ダークローズウッド調(リアル木目)仕上げ
間口：143.7cm 奥行き：51.3cm 高さ：90.5cm(102.5cm*)
重量：75kg
- 装備 スライド式キーカバー
折りたたみ式譜面立て
- 付属品 椅子・BC-8、ピアノプレーヤソフト紹介ディスク、録音用ブランクディスク、保証書、ご愛用者カード、取扱説明書(本書)

* 高さ()内は譜面立てを立てた場合

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

サービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

●本機の保証は、保証書によりご購入から満1カ年です。(日本国内のみ有効)

●保証期間の1カ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、お買い上げ店にご連絡ください。
責任を持って修理調整をいたします。

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号などをハッキリお知らせください。
またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一手をえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないでみます。)

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お持込み窓口)

北海道サービスセンター 〒064-0810 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内
TEL. 011(512)6108

仙台サービスセンター 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TEL. 022(236)0249

首都圏サービスセンター 〒211-0025 川崎市中原区木月1184
TEL. 044(434)3100

東京サービスステーション* 〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11
(*お持込み修理のみお取扱い)
TEL. 03(5488)6625

浜松サービスセンター 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL. 053(465)6611

名古屋サービスセンター 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL. 052(652)2230

大阪サービスセンター 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL. 06(877)5262

四国サービスステーション 〒760-0029 高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店内
TEL. 087(22)3045

広島サービスセンター 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL. 082(874)3787

九州サービスセンター 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL. 092(472)2134

[本社]

カスタマーサービス部 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL. 053(465)1158

北海道支店 / 〒064-0810 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内
地区営業課 TEL. 011(512)6114

仙台支店 / 〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル
地区営業課 TEL. 022(222)6144

東京支店 / 〒108-8568 東京都港区高輪2丁目17-11
営業推進課 TEL. 03(5488)6464

関東支店 / 〒108-8568 東京都港区高輪2丁目17-11
営業推進課 TEL. 03(5488)1680

名古屋支店 / 〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28
営業推進課 TEL. 052(201)6145

大阪支店 / 〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
営業推進室 TEL. 06(252)2390

広島支店 / 〒730-0031 広島市中区紙屋町1-1-18
営業推進課 TEL. 082(244)3748

九州支店 / 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
営業推進課 TEL. 092(472)2152

電子楽器営業部
クラビノーバ営業課 / 〒430-8650 浜松市中沢町10-1
TEL. 053(460)3275

住所および電話番号は変更になる場合があります。

クラビノーバインフォメーションセンター
TEL 053-460-5272

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

受付日： 月曜日～金曜日(祝日および弊社の休業日を除く)

受付時間： 10:00～12:00 / 13:00～17:00

クラビノーバインターネットホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/product/cl/>

資料

ヤマハ株式会社